

科目名	看護学概論		担当教員		
開講年次	1年 前期		単位数	1	時間数 30
テキスト	看護学概論 医学書院				
参考文献 関連科目	ナイチンゲール看護論入門:金井一薫著 中範囲理論 教育学 機能看護論 地域・在宅看護論 関係法規 等				
学習のねらい	看護の定義・対象・方法、社会が求める看護について多角的に思考する必要を学ぶ。また、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできることが狙いである。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論を学ぶ意義を理解し、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできる。 2. 社会が求める看護を提供する必要性を理解し、看護専門職者として看護の質保証が求められていることを理解する。 3. 看護実践を検証する上で、手立てとなる看護理論を学ぶ意義を理解する。また、本学におけるナイチンゲール看護論を基盤とした持てる力を支援する看護を学ぶ意義を理解する。 4. 看護技術は、看護の専門知識に基づいて、受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為であり、実施者の看護観と技術のレベルが反映される看護実践である。その看護実践については、個人として責任を持つと同時に多職種との連携協働により、コミュニケーション能力 (ICT*活用含む) が求められていることを理解する。 <p>* ICT:information and communication technology</p>				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2	1.看護とは、	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の定義 保健師助産師看護師法における看護師の定義 2) 看護職能団体による看護の定義 3) 看護の役割と機能 4) 看護実践とその質保証に必要な要件 看護実践に欠かせない要素 看護の質保証に欠かせない要件 5) 看護の継続性と連携 			講義 個人ワーク
3	2.看護の対象の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活者としての対象 2) 看護の提供の場は、病院施設のみでなく人間の生活の場にある。多様な生活の場である地域での看護が求められていることを理解する。 3) 生活者である対象とその社会の最小単位となる家族の多様性について学ぶ。 			
	3. 看護の提供者	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護職の資格・養成制度・就業状況 2) 看護職者の継続教育とキャリア開発 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 			
	4.看護の法的根拠	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護と関連する法律を概観し、看護職の法的根拠・相対的欠格事由等について理解する。 			

4	5. 看護の歴史	<p>1)看護について、様々に定義されているが、対象は人間であり、対象の理解と人間の健康を支援することを理解する。</p> <p>2) 時代とともに社会が求める看護の変化を理解し、保健医療福祉のチームとそのメンバーとして多職種連携・協働とコミュニケーションが求められていることを理解する。</p> <p>3) そのコミュニケーションツールとして ICT の活用が推進されていることを理解する。</p> <p>4) 健康の定義は時代とともに変遷していることを理解する。</p> <p>5) 方法としての看護技術は、看護の専門知識に基づいて受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為である。実施者の看護観と技術のレベルが反映されるものである。その看護技術の意味を理解する。</p>	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
5			
6			
7	6.看護実践と質保証と看護理論	<p>1)看護理論を学ぶ意義。</p> <p>看護実践における事象・現象を帰納的論証したものが看護理論である。現象をどのように検証・意味付け・根拠づけられているかを理解し、看護の質保証の根拠でもあることを理解する。</p> <p>①ナイチンゲール看護論 ②ロイの適応論</p> <p>③ヘンダーソンのニード論 ④セルフケア理論</p> <p>⑤ 人間関係論 ⑥危機理論</p> <p>⑦ マズロー欲求階段説 ⑧ストレスとコーピング</p> <p>⑨ タクティール ⑩ムーアの分類 等</p>	<p>グループワーク</p>
8			
9			
10	7.もてる力を支援する看護と学習支援	<p>1)ナイチンゲール理論</p> <p>2)対象の健康教育を受ける権利があることを理解し看護における学習支援は対象のもてる力を支援する看護について理解する。</p>	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
11			
12	8.学習の展望	<p>1) 看護専門職者の基礎看護教育課程を学ぶ意義を学び、目指す看護(師像)について、自身の学習姿勢を考える。また、その目指す看護(師像)のために今どのような学習姿勢で臨むかを表明する。</p>	<p>個人ワーク</p>
13			
14			
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価をする	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	機能看護学Ⅰ（安全を支える援助技術）	担当教員：二	(学習項目：1～5) (学習項目：6) (学習項目：7)		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ				
参考図書	形態機能学 日本看護協会				
関連科目	微生物学 病理学 人間関係論 ナイチンゲールと三重の関心				
ねらい	看護技術の基盤となる人間関係形成に大きく影響を及ぼすコミュニケーションの意義と方法について学び、コミュニケーション能力を高めていくための基本的スキルを習得する。また、安全・安楽・自立を考慮した病床の環境や安楽な体位の保持の援助技術や感染対策についても学ぶ。感染対策は、スタンダードプリコーションに基づいて実施ができる技術の習得をする。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護場面において対象の持てる力をひきだせるコミュニケーション技術を理解する 2. 看護における環境および療養環境調整の意義と目的を理解する 3. 標準予防策・感染経路別予防策防について理解する 4. 人間の構造を理解し、ボディメカニクスの原理を考慮した技術の活用方法を習得する 5. さまざまな体位とその目的を理解し体位変換の援助方法を習得する 6. 車椅子やストレッチャーの移乗の援助と移送の援助方法を習得する 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2	1. 環境	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護において環境を整えるということ 2) 病床環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 入院における生活環境の変化 (2) 病院の構造・病室の種類 (3) 病室の環境調整と調整 (4) ベッド (5) 寝具 (6) ベッド周囲の快適性とは 			講義・演習
	2. 安全・安楽な環境を整える看護実践	<ol style="list-style-type: none"> 1) 臥床患者のシーツ交換と環境統制 			演習
3 4	3. 効果的なコミュニケーションの実際	<ol style="list-style-type: none"> 1) 接近的コミュニケーションを成立させるためには <ol style="list-style-type: none"> (1) 傾聴の技術 (2) 情報収集の技術 (3) 説明の技術 (4) アサーティブネス 			講義・演習
	4. コミュニケーション障害の対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションに障害がある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションが必要な身体機能 3) コミュニケーション障害がある人への対応 			講義・演習
	5. 看護場面において効果的なコミュニケーション技法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自己のコミュニケーションの特徴を考察する 2) 自己のコミュニケーションを振り返る 			演習
5 6 7	6. 感染予防	<ol style="list-style-type: none"> 1) 標準予防策（スタンダードプリコーション） <ol style="list-style-type: none"> (1) 標準予防策の基礎知識 (2) 対策の実際 			講義・演習

8		<ul style="list-style-type: none"> ①手指衛生、個人防護具 (PPE) ②患者ケアに塩生した器具 ③環境対策 リネン ④鋭利なものの取り扱い ⑤患者の蘇生など救急時の対応 ⑥患者配置 呼吸器衛生 2) 感染経路別予防策 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染経路別予防策の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ①接触予防策 ②飛沫予防策 ③空気予防策 3) 無菌操作 <ul style="list-style-type: none"> (1) 無菌操作の基礎知識 (2) 対策の実際 4) 感染性廃棄物の取り扱い <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染性廃棄物の基礎知識 (2) 対策の実際 5) 針刺し防止 <ul style="list-style-type: none"> (1) 針刺し防止の基礎知識 (2) 対策の実際 6) 感染予防対策の看護実践 <ul style="list-style-type: none"> (1) 個人防護具 手指衛生 (2) 無菌操作 滅菌手袋、滅菌ガウン 	
9 10 11 12	7. 活動と休息	<ul style="list-style-type: none"> 1) ボディメカニクス <ul style="list-style-type: none"> (1) ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 2) 体位変換 <ul style="list-style-type: none"> (1) 体位変換の基礎知識と実際 <ul style="list-style-type: none"> ①左右の移動、上方への移動 ②仰臥位⇄側臥位 ③仰臥位→ファーラー位 ④仰臥位→長坐位→端坐位→立位 3) 安楽確保の技術 <ul style="list-style-type: none"> (1) 褥法とケアを通じてもたらされる安楽 4) 歩行時の援助 <ul style="list-style-type: none"> (1) 歩行時の基礎知識と実際 (2) 歩行を補助する器具 (杖・歩行器) 5) 移動・移送 <ul style="list-style-type: none"> (1) 車椅子・ストレッチャーの基礎知識と実際 6) 看護実践 <ul style="list-style-type: none"> (1) ボディメカニクスに基づいた体位変換 	講義・演習
13 14	技術評価	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送 感染予防 シーツ交換 	

15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法	学科試験 技術試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1～5 20% 学習項目：6 15% 学習項目：7 15% 技術試験： 50%		

授業科目名	機能看護論Ⅱ (清潔・衣生活援助技術)		担当教員		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院				
参考文献 関連科目	看護が見える①基礎看護技術 MEDIC MEDIA、 看護援助動画 看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院				
学習のねらい	<p>人が生命をはぐくみ、維持するためには生活行動が不可欠であり、「衣・食・住」の営みが基本となる。からだの清潔を保ち、身だしなみを整えることは人間の基本的ニーズであり、それらの維持が困難になった場合、対象に適した方法や組み合わせを工夫して援助を行う技術を習得する。また、対象の清潔に対する考え方や習慣は多様であるため、個別性をふまえて安全で安楽な援助技術、対象に配慮した技術を習得する。</p> <p>外界の刺激から身を守る衣服の役割と同様に、皮膚・粘膜自体の身体内部を守る働きを理解し、対象の日常生活に近い方法で清潔行為をし、その人らしい装いができるよう援助する。</p>				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚・粘膜の構造を理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解する 2. 対象の生活を整えるための身体の清潔および衣生活の援助技術を習得する 3. 対象の個別性を踏まえ、安全で安楽な清潔援助を計画・実施・評価できる 4. 対象の羞恥心に配慮し、反応を観察しながら援助が実施できる 5. 演習を通し、対象の気持ちを推察できる <p>①対象が気持ち良いと言える援助の実施</p>				
回数	学習項目	学習内容		方法	
1 2 3	1. 清潔援助の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1) 清潔の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 心地よいとは何かを考える (2) 清潔援助の身体への効果 (3) 患者の状態をアセスメントし援助方法を選択 (4) 湯の温度 (5) 所要時間 (6) 体位 2) 原理原則・根拠に基づいた、対象が「心地よい」と感じる援助方法を考える <ol style="list-style-type: none"> (1) 入浴・シャワー浴 (2) 洗髪・整容 (3) 手浴・足浴・爪のケア (4) 全身清拭・衣服 (5) 陰部洗浄・おむつ交換 (当て方) 3) グループワークでの学びを発表、共有し実践につなげる 		講義演習 グループワーク	

4	2. 清潔援助の実際 事例患者への看護実践	1) グループワークでの学びを元に援助の実際を学ぶ		講義演習 グループワーク
5		(1) 洗髪		
6		・洗髪車 ・ケリーパッドを使用		
7		(2) 手浴・足浴・爪切り		
8		(3) 全身清拭・寝衣交換		
9		・学生同士で患者役・看護師役をする		
10		(4) 陰部洗浄・おむつ交換		
11		・陰部モデルを使用し、男性・女性両方を実施する ・学生同士で患者役・看護師役をする		
12	技術評価	単位認定試験		
13				
14				
15	学科評価	単位認定試験		
評価方法		学科試験 技術試験 出席態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分		学科試験 50% 技術試験 : 50%		

授業科目名	機能看護論 III (日常生活援助：食事・排泄)		担当教員 (学習項目：1～2) (学習項目：3)		
開講年次	1年次前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学③ 基礎看護技術II：医学書院				
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院				
関連科目	看護形態機能学				
ねらい	<p>食べることは人間の基本的ニーズであり、人が生命を維持するうえで必要不可欠な行為である。なんらかの原因により食事摂取困難になったとき、人は生命の危機に直面する。人間の日常生活に必要な食事・栄養の意義を理解し、その援助技術を学ぶ。</p> <p>ふだん意識することなく行っている排泄行為は、日常的な行為であり人間がもつ自然の欲求のひとつである。排泄という行為は最も人に見られたくない極めて個人的な行為でもある。なんらかの原因によって排泄を他人に委ねなければならない状況が生じたとき、「情けない」「自分は生きている価値のない人間になってしまった」などの思いを描くことが多い。また、排泄の援助は対象が最も頼みにくい援助のひとつであるといわれている。排泄の援助を受ける対象に対して、羞恥心に配慮した排泄の援助技術を学ぶ。</p>				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養や食事を支える消化・吸収のメカニズムの理解や、環境、行為、味わいについて理解する 2. 様々な健康状態にある対象に適した食事内容や方法を理解し、対象に合わせた必要な援助を理解する 3. 安全に摂取するための食事、満足感が得られるような食事の援助を習得する。 4. 人間の排泄を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する 5. 排泄に影響を及ぼす要因について根拠をもって理解できる 6. 排泄行動に影響を及ぼす要因を理解し、対象に応じた排泄援助を習得する 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 } 3	1. 食事の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1) 食事・栄養の意義 2) 摂食・嚥下のメカニズム 3) 食事と栄養に関するアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 栄養状態 (2) 食事摂取内容 (3) 水分摂取と排泄 			講義 演習
	2. 食事の援助の技術 演習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 食事を妨げる要因 2) 食事形態の実際 3) 科学的根拠に基づいた安全安楽な栄養と食事への援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 経口摂取できる対象への食事援助 (2) 視力障害のある対象への食事援助 (3) 嚥下障害のある対象への食事援助 (4) 経口摂取できない対象への食事援助 (経管栄養・固定法と確認方法) (5) 口腔ケア（トロミをつけて体験） 			講義 演習 グループ ワーク

4 5 6 7	3. 自然排泄および自然排便の基礎知識	1) 排泄の意義・メカニズム 2) 排泄に関するアセスメント 3) 自然排尿・自然排便を阻害する要因 4) 自然排尿・自然排便を促す方法 1) 便器・尿器を使用したベッド上での排泄援助および根拠・留意点 2) 便器・尿器、ポータブルトイレを用いた排泄援助 3) 頻尿と尿失禁 4) 排尿困難と尿閉 5) 科学的根拠に基づいた安全安楽な排泄援助 (1) 床上排泄 (2) ポータブルトイレ (3) グリセリン浣腸 (4) 導尿	講義 演習
8	学科評価	単位認定試験	
	評価方法	出席状況 授業態度 学科試験	
	評価区分	学習項目 1～2 : 40% 3 : 60%	

授業科目名	機能看護論Ⅳ (フィジカルアセスメント))		担当教員		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院				
関連科目	看護がみえる③ フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA				
参考図書	フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 医学書院				
学習のねらい	<p>フィジカルアセスメントは「Head to Toe (頭から爪先まで)」を系統的にみることで、患者の状態を具体的に把握することができる身体診査技術である。しかし、フィジカルアセスメントはヘルスアセスメントの中に含まれており、身体的なデータを収集・査定することのみでなく、人間の全体像をとらえるために心理的・社会的アセスメントを加えることで対象者を全人的・多角的にとらえられるようになる。これが看護の視点から見たアセスメントと言える。</p> <p>フィジカルアセスメント力を育てるためには、フィジカルイグザミネーションの手順や方法だけでなく、思考力や知識が備わっていなければならない。そのため、事例等を用いながら基礎的知識や技術、アセスメント能力を習得し、報告の仕方や報告を学ぶことができる。その際、報告をどのように行えばいいのか、系統的に報告することの大切さを学ぶことができる。</p>				
目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの意義・目的を知り、看護におけるヘルスアセスメントの重要性を理解する ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関連を理解し、フィジカルイグザミネーションの手順や方法だけでなく、思考や知識を学ぶ。 系統別フィジカルアセスメントの基礎的知識と技術を学ぶ。 フィジカルイグザミネーションやバイタルサイン測定したことをアセスメントし、報告の方法を学ぶ。 				
回数	学習項目	学習内容		方法	
1	1. ヘルスアセスメントとは	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントが持つ意味 ヘルスアセスメントにおける観察 ヘルスアセスメントにおける重要な視点 		講義	
	2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 問診(面接)の技術 健康歴聴取の目的 健康歴聴取の実際 セルフケア能力のアセスメント 情報の整理 		講義	
	3. 心理・社会状態のアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 心理的側面のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 意識状態のアセスメント ストレスとその対処法に関するアセスメント 自己についての知覚に関するアセスメント 社会的側面のアセスメント 		講義	
2 3	1. 全体の概観	<ol style="list-style-type: none"> フィジカルアセスメントに必要な技術 <ol style="list-style-type: none"> 視診 (2) 触診 (3) 聴診 (4) 打診 全身状態・全体印象の把握 		講義 演習	

		<p>3) バイタルサインの観察とアセスメント (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧 (5) 意識</p> <p>4) 計測 (1) 身長 (2) 体重 (3) 皮下脂肪厚 (4) 腹囲</p>	
4	1. 系統別フィジカルアセスメント	<p>1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント (1) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 呼吸器系の基礎知識 (3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際</p>	講義
5		<p>2) 循環器系のフィジカルアセスメント (1) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 循環器系の基礎知識 (3) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際</p>	講義
6		<p>1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考えることができる。 2) 実践したことをもとに報告することができる。</p>	演習
7		<p>1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント (1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの目的 (2) 乳房・腋窩の基礎知識 (3) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの実際</p> <p>2) 腹部のフィジカルアセスメント (1) 腹部のフィジカルアセスメントの目的 (2) 腹部の基礎知識 (3) 腹部のフィジカルアセスメントの実際</p>	講義
8		<p>1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える 2) 実践したことをもとに報告することができる。</p>	演習
9		<p>1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 筋・骨格系の基礎知識 (3) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際</p> <p>2) 神経系のフィジカルアセスメント (1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 神経系の基礎知識 (3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際</p>	
10		<p>1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える 2) 実践したことをもとに報告することができる。</p>	演習

11		1) 頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント (1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 神経系の基礎知識 (3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際 2) 外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント (1) 外皮系のフィジカルアセスメントの目的 (2) 外皮系の基礎知識 (3) 外皮系のフィジカルアセスメントの実際	
12		1) 事例を用いて患者の状態を把握しアセスメントを行い、看護を考える 2) 実践したことをもとに報告することができる。	演習
13 14	技術評価	1) 技術の習得の確認を行い、自己の課題を明確にする。(体温・脈拍・呼吸・血圧・呼吸音・腹部の聴診・意識レベル) 2) 自分で行ったフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントを報告することができる。	
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 技術試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科試験 50% 技術試験 50%	

授業科目名	機能看護学Ⅴ (診療の補助技術① 与薬技術)		担当教員		
開講年次	1年前期	単位数	1	時間数	20
テキスト	基礎看護学 医学書院				
参考文献					
関連科目	薬理学 薬物療法と看護				
目標	1. 薬物の基礎知識を想起し、薬物療法と看護の関連を理解できる。 2. 与薬のための法的根拠を理解できる。 3. 発達段階に応じた与薬法についての基本的知識、技術、態度を習得できる。 4. 多様な場で自己管理ができる支援方法を理解できる。				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2	1. 医薬品の法的規制 (保健師助産師看護師法 37条) 2. 薬物の投与経路 3. 与薬のために援助技術	紙上事例を用いた学習 1) 与薬の指示から実施まで (2人以上で確認) 2) 正しい薬物投与 与薬法 (計算方法) 3) 与薬における安全管理 4) 感染予防 (医療廃棄物の取り扱い 保管場所) 5) 薬物投与における安全管理 6) 事故発生時の対応;医療安全の確保 に向けた視点 7) リスクマネジメント;医療安全の確保 に向けた取り組み			講義演習
3 4 5 6 7 8 9	2. 与薬方法 発達段階に応じた与薬方法	紙上事例を用いた学習 1) 経口与薬方法:内服、口腔内投与 2) 経皮・外用的与薬方法:塗布、塗擦 貼用法 3) 点鼻、点眼 点耳 4) 坐薬挿入法:直腸内 5) 注射法:皮内注射法 皮下注射法 筋肉内注射 点滴静脈内注射 6) 高カロリー輸液法と 中心静脈栄養の管理 7) 輸血法と輸血の管理 8) 輸液ポンプ シリンジポンプの操作			講義演習
10	学科評価 まとめ	単位認定試験			
評価方法	授業態度 出席状況 学科試験				
評価区分	学科試験 100%				

授業科目名	機能看護論VI (診療の補助技術②)		担当教員 (学習項目：1～2) (学習項目：3～4)		
開講年次	1年前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術II：医学書院 臨床看護学総論：医学書院				
参考文献	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
関連科目	看護技術がみえる①・②：MEDIC MEDIA				
ねらい	<p>看護師は医師の行う検査や治療行為の介助を行うとともに、その指示や了解のもとに検査や治療に関わるため検査や治療は安全に行われ、正確な結果を得る必要がある。そのためには安全・安楽・正確に実施できる技術を学ぶ。</p> <p>疾病の治療・予防のひとつである与薬・注射は、医師の指示のもとに行われるため、看護師は医療専門職としての職業倫理の観点から、対象者の安全・安楽を確保するための確かな知識・技術・倫理的な態度を兼ね備える必要がある。対象を理解し、看護実践に必要な基本技術を学ぶ。</p>				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う基本的援助技術と診療を受ける対象を理解し、看護の方法が理解できる 2. 検体検査・生体検査の意義と目的、これらにおける看護の実際が理解できる 3. 医療現場にあふれている多くの医療機器を安全に使用できるよう、機器の基本的な仕組み、使用方法や管理について理解できる 4. 治療・処置の意義と看護者の役割を理解する 5. 対象者の身体侵襲に配慮した援助を考え、検査・治療における看護技術を実施できる 				
回数	学習項目	学習内容		方法	
1	1. 診療と看護 (診察・診察時の看護)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 診療における看護師の役割と倫理 2) 診察時の看護 3) 検体検査、生体検査 4) 各検査の目的と看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 尿検査 (2) 便検査 (3) 喀痰検査 (4) 心電図 (5) X線検査 (6) CT・MRI検査 (7) 内視鏡検査 (8) 超音波検査 (9) 肺機能検査 (10) 核医学検査 		講義 技術演習	
2	2. 血液検査	5) 各検査のメカニズムと結果の示す意味			
3		<ol style="list-style-type: none"> 6) 血液検査の種類とその目的 <ul style="list-style-type: none"> (1) 静脈血採血 (2) 動脈血採血 (3) 簡易血糖測定 7) 静脈血採血と看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 物品の準備と採血の実際 (2) 血液検体の取り扱い方 <ul style="list-style-type: none"> ① 真空管採血による採取方法と手順 ② 注射器採血による採取方法と手順 8) 技術演習：血糖測定・静脈血採血 			

4 5 6	3. 呼吸・循環を整える	1) 酸素吸入法の基礎知識 (1) 酸素吸入療法の目的と種類 (2) 使用器具の種類と特徴・援助方法 ① 中央配管 ② 酸素ポンベ ③ 酸素マスク ④ 鼻カニューレ 2) 酸素吸入療法の援助の実際 (1) 中央配管方式による方法 (2) 酸素ポンベの取り扱い 3) 排痰ケア ① 体位ドレナージ ② 徒手呼吸介助 ③ 咳嗽 ④ ハフイング 4) 吸入(薬液噴霧法) (1) ネブライザーの目的と適応 (2) ネブライザー治療時の看護 5) 一時的吸引の援助の実際 (1) 吸引の目的と適応 ① 口腔吸引 ② 鼻腔吸引 ③ 気管内吸引	講義 技術演習
7	4. 包帯法	1) 包帯の目的 2) 包帯使用時の原則と方法 環行帯 縲施帯 麦穂帯 三角巾 3) 弾性ストッキングの目的	講義 技術演習
	5. 学科評価	単位認定試験	
評価方法		学科試験、出席状況、授業態度、課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目 1～2 : 40% 3～4 : 60%	

授業科目名	健康支援	担当教員：	(学習項目：1～5)		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	看護学概論、成人看護学概論 医学書院				
参考文献	地域・在宅看護論の基礎、厚労省 HP (白書他)、給務省 HP (統計) 他				
関連科目	看護関係法令 医学書院				
ねらい	地域で暮らす対象や家族を取り巻く環境を理解し、対象の健康保持・増進、疾病予防に向けた看護師の役割が理解できることがねらいである。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす対象や家族を取り巻く環境を理解する 2. 対象の健康保持・増進、疾病予防に向けた看護師の役割が理解できる 3. 対象を生活者としてとらえ、健康状態・対象の特性を把握し今後の状態予測をし、セルフマネジメントができる支援方法を習得する 4. 対象や家族が望む生き方や暮らし方を尊重し社会資源の活用が理解できる 5. 他職種連携・地域連携の必要性が理解できる 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 健康の基礎知識	1) 健康の定義 WHO ウェルネス ヘルスプロモーションと健康政策			講義
2 3	2. 健康支援の基礎理論	1) 健康行動に必要な理論 (1) 健康行動理論 (2) 健康信念モデル (ヘルスビリーフモデル) (3) 自己効力理論 (4) セルフケア理論 (5) 危機理論 (6) ストレスと対処 (7) 生きる力と強さに着目したヘルスプロモーション、レジリエンス、リカバリー、ストレングス、エンパワーメント 2) ヘルスリテラシー 3) ヘルスコミュニケーション			講義・演習
4 5	3. ライフサイクルにおける健康境域	1) ライフサイクルにおける発達課題と健康課題 小児、成人、高齢者、女性、精神 2) 健康づくりの取り組み 食事 運動 活動と休息 排泄 清潔 歯・口腔			講義・演習
6 7 8 9 10 11	4. 対象の特徴を理解した健康課題と管理	1) 学生本人と家族の健康課題と管理 2) 各発達段階に応じた事例学習 (1) 健康増進による看護師の役割 ①健康管理能力の把握の視点 ②対象の持てる力を引き出す支援 ③セルフマネジメント ④多職種連携・地域連携 成人 生活習慣病 独居高齢者の在宅生活継続支援 周産期における支援			演習 (発表含む)

		小児 アレルギー性疾患 抑うつ障害 3) 学童期の健康課題と管理 (学校保健) 4) 働く人の健康課題と管理 (産業保健)	
12 13 14	5. 地域づくりと健康	1) 行政・研究機関 (1) 量子科学研究開発機構 (QST) (予定)	講義・演習 校外学習
15	6. 学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 授業態度 出席状況 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科項目：1～5 100%	

授業科目名	健康回復支援Ⅰ（急性期看護）		担当教員		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	20
テキスト	臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 医学書院 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院				
参考文献 関係科目	1. 全書 経過別成人② 周術期看護 2. よくわかる周手術期看護 Gakken 3. 薬理学 薬物療法と看護 人体の構造と機能 6. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 7. 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 8. JRC 蘇生ガイドライン 2020 一般社団法人日本蘇生協議会				
ねらい	<p>生命の危機状態にある時期を急性期という。突然の事故や発病、持病の急速な悪化が起こり、手術を受ける患者もいる。そのため周術期にある対象の理解と発達段階を理解し、看護過程の展開を通し、回復過程に応じた看護の実際を理解する。</p> <p>外科的侵襲からの生体反応の観察や、対象者の持てる力を最大限に引き出せるように回復にむけた早期離床、合併症予防といった看護介入を理解する。</p> <p>医療現場のなかで有病者に最も近く存在する看護師には、救命救急の処置を必要とする対象に遭遇する機会が他の職種より多いと思われ、迅速で適切な対応が求められる。救命救急の目的はどのような状況にあっても、合併症や障害が最小になるように努め、尊い命を救うことである。そのために、生命（健康）の危機的状況下においても冷静に対応するための基礎的知識を理解し、生命維持に必要な一次救命処置（BLS含む）にする知識・技術を学ぶ。また、これらの援助においては、対象やその家族への精神的側面への配慮も必要となるため、説明や指導技術も視野に入れた看護の役割を学習する。</p>				
目標	1. 生命（健康）危機状況のある対象の状況がわかる 2. 手術療法を受ける対象の生体反応と周術期の看護、回復過程の看護を理解できる 3. 集中治療を受ける患者の看護や特殊な術式、低侵襲手術を受ける患者の看護が理解できる 4. 主対象の生命の安全を確保するために、救急時に必要な救急蘇生法に関する基礎知識と救命処置の方法がわかる 5. 生命（健康）危機状況における呼吸・循環を整える（一次救命処置・ABD使用）技術を身につける 要な術式における周手術各期に必要な看護を理解できる				
回数	学習項目	学習内容		方法	
1	1. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	1) 周術期看護の概論 (1) 健康の急激な破綻 (2) 急性期にある人の看護（アギュララとメズイックモデル） 2) 外科医療の基礎知識（生体侵襲） (1) 外科看護の役割と看護の要点 （インフォームドコンセント） (2) 外科手術における栄養管理 (3) 手術侵襲と生体反応（サイトカイン、ムーアの分類） (4) 手術後感染 （術野感染＝SSI・術野外感染＝CRBSI、VAP、CAUTI）		講義	

2	2. 周術期における全身管理と看護	1) 麻酔の種類と管理、合併症 2) 呼吸管理 3) 体液管理 4) 栄養管理 5) 自己血輸血 6) 緩和医療	講義
3 4 5 6	3. 術前～術後の看護	1) 術前患者の看護（日帰り手術～手術当日） 2) 術中患者の看護 3) 術後患者の看護（術後合併症の理解） 4) 手術後の患者の看護・観察の視点について事例をもとに考える	講義・演習 グループワーク （看護計画立案） 事例を用いての学習
7	4. 集中治療を受ける患者の看護を理解する	1) 集中治療を受ける患者の看護 （1）集中治療・看護の概念と役割 （2）集中治療における看護の実際 ①集中治療中の患者の看護 ②回復に向けた看護 2) 特殊な術式（最先端医療、内視鏡ガイド下の治療）、低侵襲手術を受ける患者の看護	講義・演習
8 9	5. 救命救急処置技術	1) 救命救急処置の基礎知識 （1）救急看護の概念 （2）心身の緊急反応とその理解 （3）救急対応の考え方 （4）急変時における初期対応 （5）トリアージ 2) 救急処置法の原則と実際 （1）救急処置の分類と範囲 （2）心肺蘇生と一時救命処置 ①気道確保 ②人工呼吸 ③胸骨圧迫 ④AED 3) 止血法 4) 院内急変時の対応	講義・演習 （事例を用いて）
10	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		100%	

授業科目名	健康回復支援Ⅱ (リハビリテーション看護)	担当講師： (学習項目：1～2) 担当教員： (学習項目：3～5)	
開講年次	2年	単位数 1 時間数 15	
テキスト	リハビリテーション看護 運動器 医学書院		
参考文献	リハビリテーション看護 ナーシンググラフィカ メディカ出版		
関連科目	解剖生理学、看護関係法令、地域・在宅看護論 医学書院		
ねらい	<p>広義には、各発達課題における課題解決において、また各健康障害の段階にリハビリテーションがある。また、狭義には健康回復過程にある急性期からの回復過程において、特に運動器においてリハビリテーション期がある。そして、対象のもてる力を支援する看護はリハビリテーション（再構築）看護でもある。</p> <p>広義・狭義のリハビリテーションについて、そのもてる力を支援する看護を学ぶのがねらいである。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの目的や考え方について学び、リハビリテーション看護におけるもてる力を支援する看護を理解する。 2. リハビリテーションの領域や種類・多職種との連携について理解する。 3. 多様な場にある生活の再構築をめざしたリハビリテーション看護（疾病の予防・健康増進・健康回復）とそのセルフケアの支援について理解する。 		
回数	学習項目	学習内容	方法
1 2	1. リハビリテーションとは何か	<ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーションの定義と考え方 2) リハビリテーションの目的と対象とその家族のもてる力支援する看護 3) リハビリテーションの領域（教育的・医学的・社会的・職業的） 4) リハビリテーションにおける主要概念：(ICF,ADL,QOL,ノーマライゼーション、エンパワーメント、コーピング、自己効力、レジリエンス、等) 	講義・演習
	2. リハビリテーションにおける倫理、法律、施策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 障がい者と障がい者の権利 2) 障がい者を支える法律・サービス 	講義・演習
3 4 5 6 7	3. チームアプローチ 4. 心理社会的なアセスメントと発達段階にあるリハビリテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1) 多職種によるチームアプローチ：情報共有 2) 多職種および対象とその家族における看護 1) 自己概念と障がい受容 2) 障がいのある対象とその家族（セルフケア、自己効力、エンパワーメント）の看護 3) 心に障がいのある対象とその家族のリハビリテーション看護 4) 発達段階にあるリハビリテーション 	講義・演習

	5. 多様な場にある生活の再構築へのアセスメントとセルフケア支援	1) 呼吸機能に障がいのある対象とその家族の看護 2) 循環機能に障がいのある対象とその家族の看護 3) 運動機能に障がいのある対象とその家族の看護 4) アセスメントツールとスケール： 事例 脳血管障がい・摂食嚥下障がい・排尿障がい・排便障がいの評価	講義・演習
	学科評価	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目：1～2 20% 学習項目：3～5 80%	

授業科目名	健康回復支援Ⅲ (終末期)	担当教員:	㊦ (学習項目: 1~5)		
開講年次	2年	単位数	1	時間数	15
テキスト	緩和ケア、看護倫理 医学書院				
参考文献 関係科目	1. 緩和ケア 青海社 2. https://www.mhlw.go.jp/toukei/manual/d1/manual_r03.pdf (厚労省 HP 死亡診断書) 3. https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/d1/all.pdf (H28年厚生労働白書) 4. 看取りケア 宮下光令編 南江堂 5. 看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア 長江弘子編 日本看護協会出版会 6. 緩和ケア ナーシンググラフィカ メディカ出版 地域・在宅看護論 機能看護論 看護学概論 看護慣例法規 (医学書院) 他				
ねらい	2022年現在、日本は少子高齢多死社会となった。2025年にはベビーブーマーと言われている人々が後期高齢者となる。最期をどこで迎えるか、どのように看取るかが様々な場において問われている。そうした社会の変化を理解し、対象の持てる力を支援しその人らしく最期を迎えるための看護について学ぶのがねらいである。				
目標	1. 様々な場で、終末期にある対象とその家族への看護について理解できる 2. 死の受容の過程およびその対象への看護について理解できる 3. 持てる力を支援し、その人らしく最期を迎える看護について理解できる 4. 死亡時の看護について理解できる				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2	1. 様々な場で、終末期にある対象の理解	1) 終末期 (ターミナルケア)・緩和ケア・ホスピスケア・サポータティブケア・エンドオブライフケア 等の意味 2) 生活の延長線上に死までの生=生きるがある 対象の持てる力を支援し、最期を看取る看護 ACPと倫理的課題: 意思決定支援 地域ケアシステムとエンドオブライフケア 3) 各ターミナルステージにおける対象とその家族のケア (ターミナル前期・中期・後期・死亡直前期)			講義・演習
3	2. 緩和ケア	1) 治療が望めない時期から死亡時又は死別後までのケア (1) 身体的・精神的・社会的苦痛、スピリチュアルペインなどの全人的苦痛の緩和 (2) 抗がん治療の早期から適応され、死別後の家族のケアまでを含む。⇒がん性疼痛の緩和ケア			講義・演習
4	3. エンドオブライフケア	1) WHO がん疼痛ガイドライン 2) 日本人が考える「望ましい死」とは 3) 子どもと家族の死の捉え方: WHO 小児緩和ケアの定義、 子どもを看取る家族への支援 (親と死別する子どもへの支援) 4) 病みの軌跡とエンドオブライフケア 事例: こどもとAYA世代、 事例: 心不全の末期			講義・演習

		事例：腎不全の末期 等	
5 6	4. その人らしく最期を迎える看護	1) 臨死期にみられる徴候 (1) 全身状態を評価：(Palliative Performance Scale) PPS (2) 予後予測スケール：(Palliative Prognostic Index) PPI 2) (Do not Resuscitation) DNR 3) グリーフケア	講義・演習
7	5. 死亡時の看護	1) 臨終時の看護・家族ケア 2) 臨死期の対応（家族の参加、家族心理） 3) 在宅でその人らしく最期を迎える看護 （自宅で死を迎える意味） 4) 死後の処置（エンゼルケア） 5) デスカンファレンス・・・看護師への支援	講義・演習
	学科試験	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目：1～5 100%	

授業科目名	薬物療法と看護	担当講師：	(学習項目：1～6)		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	20
テキスト	臨床薬理学 医学書院				
参考文献	薬理学 医学書院				
関連科目	機能看護論IVと薬の技術				
ねらい	薬物療法における看護職者の役割を理解し、必要な知識を学び、多様な場での対象と家族の意思決定を尊重し継続した支援が大切であると理解できることがねらいである。				
目標	1. 薬物療法における看護職者の役割を理解する 2. 健康状態・対象の特徴を理解し服薬における看護の基礎的知識・技術・態度を習得することができる 3. 事例を通じて薬物管理ができるように服薬指導ができる 4. さまざまな場での対象と家族の意思決定を尊重し継続した支援方法が理解できる				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1	1. 薬物療法の基礎的知識	1) 紙上事例を用いた学習 (1) 薬物療法に必要な看護の基本的知識 ①薬物動態と相互作用 ②薬物の剤形とその特徴 ③薬物の体内動態 ④ハイリスク患者への看護	講義・演習		
2 3	2. 対象の特徴を理解した服薬管理	1) 薬効が対象に影響を与える因子と看護 (1) 服薬管理に向けた指導 ①妊産婦 ②小児 ③高齢者	講義・演習		
4 5 6 7	3. 服薬支援 社会復帰に向けた自己管理、服薬管理	1) 紙上事例を用いた学習 (糖尿病、心不全、統合失調症、認知症) 2) 薬物療法における看護師の役割 (1) 薬に対する対応能力 セルフケア能力、コンプライアンス アドヒアランス、コンコーダンス (2) 服薬自己管理能力の把握の視点 (3) 対象の持てる力を引き出す援助 (4) 自己管理困難者への管理法 (5) 在宅での服薬管理の問題と生活への影響の理解 (6) 在宅療養者が主体的に薬物療法できる援助の視点の理解	講義・演習		
8	4. 事例患者に応じた薬物管理に向けた薬物管理のロールプレイ	1) グループワーク (1) ロールプレイに向けての指導案作成	講義・演習		
9	5. 薬物管理のロールプレイ	1) 指導案を作成しロールプレイする (1) ロールプレイを実施した後の看護評価	講義・演習		

		(2) 課題の明確化	
10	6. 薬の安全管理 メディケーションエラー について 学科評価 まとめ	1) メディケーションエラーを防ぐポイントについて (1) 針刺し (2) 抗がん剤 (3) 誤薬 (4) 与薬など 単位認定試験	講義・演習
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目：1～6 100%	

授業科目名	医療安全	担当教員:	(学習項目: 1~6)		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	15
テキスト	医療安全 医学書院				
参考文献 関連科目	千葉県看護協会 HP: 看護・医療における安全対策 医療安全シリーズ				
ねらい	人は日常生活でもしばしば間違いをおかすが、医療現場ではわずかな間違いでも患者の生命を脅かしかねない。「人は間違いをおかす」を前提に、医療事故の防止・医療安全につなげる看護について学ぶ。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全概論、リスクマネジメント、ヒューマンエラーについて理解を深め事故を分析し、発生要因と防止策を考察する 2. 間違いの早期発見や事故の未然防止に努めるために、チーム医療多職種間のコミュニケーションの重要性を理解する 3. 医療、看護行為、医療器具、医薬品、患者に存在する危険を認識する能力をもつ重要性を把握し、安全管理の必要性が理解できる 4. 医療サービスを利用している場で対象の特性に応じてどのような事故がおこりやすいか考え対策を考えることができる 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 医療安全の概念 事後防止の考え方	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全を学ぶことの大切さ <ol style="list-style-type: none"> (1) 人は間違いをおかす存在である (2) 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 (3) 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 (4) 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務 (5) 医療におけるリスクマネジメントの考え方の理解 (6) ヒヤリハット・事故の事例分析の意義(ハイリッヒの法則) 			講義
	2. 医療安全と組織としての取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1) 厚生労働省の取り組み 2) 日本看護協会の取り組み 			
	3. 医療安全に関する法定規定				
2 3 4 5	4. 医療事故と看護業務	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の特徴を踏まえて起こりやすい事故対策を考える <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護事故の構造 (2) 看護事故防止の考え方 2) 医療事故事例 <ol style="list-style-type: none"> (1) チューブ管理上のトラブルによる事故 (2) 転倒・転落事故 (3) 誤嚥・窒息・異食事故 			講義・演習 課題提出

		<ul style="list-style-type: none"> (4) 入院中の事故 (5) 患者誤認事故 3) 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 <ul style="list-style-type: none"> (1) 針刺し事故 (2) 職業感染事故 (3) 抗がん剤の曝露事故 (4) 放射線被曝事故 (5) 院内・訪問看護における暴力事故 4) KYT（危険予知訓練）の実践 	
	5. 医療安全とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 1) 報告・記録 <ul style="list-style-type: none"> (1) 事故防止のための他職種とのコミュニケーション：ISBARC (2) 記録：S主観・O客観・A考察・P計画を明確に記載し、正確な情報の記録 (3) インシデント・アクシデントレポート 	演習
6 7	6. 医療安全と組織としての取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1) リスクマネジメント 2) セフティーマネジメント ・医療安全大会参加（11月） 	講義 校外学習
	学科評価	単位認定試験	
評価方法		学科試験 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目：1～6 100%	

授業科目名	看護と倫理	担当講師 (学習項目：1～3) 担当教員： (学習項目：4～5)			
開講年次	1年次	単位数	1	時間数	20
テキスト	看護倫理 医学書院				
参考文献 関連科目	医療倫理学のABC：服部健司他編著 メヂカルフレンド社 生物と生命倫理の基本ノート 西沢いづみ著、kinmodo 看護に生かすバイオエシックス 木村利人、Gakken 看護ケアの倫理学 高崎絹子、放送大学 入門・医療倫理1 赤林朗、勁草書房 他 看護の統合と実践I、看護学概論、地域・在宅看護論 他				
ねらい	保健医療福祉にある倫理的課題について学ぶ。また、専門職者として倫理的感受性を持ち、倫理的推論をし何が課題であるか思考することが、態度表明し・実現（行動を起こす）につながることを、それは看護実践において、より良い看護への取り組み姿勢となることを学ぶのがねらいである。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理の概念の変遷をについて理解する 2. 高等教育において倫理について学ぶ意義を理解する 3. 看護における倫理および職能団体による倫理綱領について理解する 4. 看護職者に求められる職業倫理を理解する 5. 医療倫理にて示される原則や課題解決手法について理解する 6. 医療安全を含め、看護実践におけるあらゆる場面で倫理が問われること理解する 7. 発達段階・健康障害の種類にある倫理的問題とその対応について理解する 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 生命倫理の概念の変遷	生命倫理の概念：広義および狭義（人工受精等生命の誕生、遺伝子治療、臓器移植、等）医療に求められている倫理について理解する			講義
2	2. 専門職者に求められる倫理・職業倫理	看護職能団体（日本看護協会・国際看護協会の提唱する倫理綱領とその提唱の意味）が提唱する倫理綱領をとおして看護専門職者のあり方について考え、理解する			講義
3	3. 医療倫理	医療倫理の原則として提示される倫理原則について、事例を用い学ぶ。また、医療資源の分配について、その分配基準と正義（公平）について理解する			講義
4	4. 倫理的課題と看護看護倫理	倫理的感受性を持ち、倫理的推論し何が課題であるか、問題であるかを思考し、態度表明する力・実現（行動を起こす）について理解する			講義・演習
5 6 7 8 9	5. 各発達段階・健康段階において求められる倫理	各発達段階・健康障害の種類にある倫理的課題と看護職者に求められる責務について理解する 胎児期・小児期・成人期・老年期や母性看護、精神看護に関連する倫理的課題（DV*、虐待、ACP**、性同一障害に関連する人権侵害等）について学び、看護職者としてのあり方を考える			講義・演習

		看護倫理に関連する文献学習：看護専門職者としての態度を形成する 看護倫理としてどのような課題があるか、先行文献・事例から求められる倫理について学ぶ（看護管理、看護実践、看護研究、等）	
10	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目：1～3 50% 学習項目：4～5 50%	

*DV : domestic violence

**ACP:advance care planning

授業科目名	看護方法論 I	担当教員:	(学習項目: 1~4)
			(学習項目: 5)
開講年次	1年	単位数	1
		時間数	30
テキスト	臨床看護総論 医学書院		
参考文献	ナイチンゲール看護論・入門 金井一薫 著		
関連科目	ポートフォリオとプロジェクト学習 鈴木敏恵 医学書院		
	関連科目; 看護学概論 看護方法論 II		
ねらい	<p>看護師が患者の身体状況を的確に把握するために、臨床判断を行い、緊急度や重症度を判断し、患者の状態にあった的確な看護ケアを提供できる力の基礎的な能力を学ぶ。この過程で、臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」を身につける。また、生活の質の向上のためにも対象者のもてる力（自然治癒力）がさらに高まるような看護ケアについて学ぶ。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床判断と臨床推論とは何かを理解し、その関係を理解できる 2. 臨床現場で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断過程を思考できる 3. 対象のもてる力を支援する考え方を理解できる 4. 問題解決プロセスとコーチングを理解できる 5. 事例を用いて、臨床判断の思考過程や対象者のもてる力を最大限に活かし支援していく看護を考える 		
回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3 4 5 6 7 8	1. 臨床判断	<p>1) 臨床判断プロセス</p> <p>(1) 臨床判断プロセスとは何か。 臨床判断プロセスモデル クリスティーン・タナー「看護師のように考える」</p> <p>(2) 臨床判断の必要性</p> <p>2) 看護過程と臨床判断の関連</p> <p>3) 臨床判断のプロセスの構成要素</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気づき 2. 解釈(分析的推論 直感的推論 説話的推論) 3. 反応 4. 省察 行為中の省察 行為後の省察 <p>4) 臨床推論</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨床推論とは (2) 臨床推論の方法 <p>5) 臨床判断の実際 臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「省察」を臨床現場で遭遇しやすい事例で体験する</p>	講義・演習
	2. もてる力を支援する看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象のもてる力を活用した看護 ナイチンゲール看護論 健康の定義 2) 事例を用いて対象のもてる力とは何か。 もてる力を活用した看護 	

	3. 経過記録	1) SOAP 法 2) フォーカス・チャーティング	
	4. カンファレンスの活用方法	1)カンファレンスの意義と開催方法 (1)カンファレンスの定義・目的・機能 (2)カンファレンスの基本語法 ①カンファレンスの運営 ・構成メンバーと流れ ・司会者・板書係・参加者の求められる役割と技法	
9 10 11 12 13 14	5. 看護実践	2) 事例をもとに、臨床判断の思考過程 対象者のもてる力を最大限に活かし支援して いく看護を考える	講義・演習 個人ワーク 各教員より指導
15	6. 学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 演習評価 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学科項目：1～4 50% 学習項目：5 50%	

授業科目名	看護方法論Ⅱ	担当教員：	(学習項目：1～6)		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 医学書院				
参考文献	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社				
関連科目	NANDA-I 看護診断 医学書院 看護がみえる④看護過程の展開 メディックメディカ				
ねらい	ゴードンのアセスメント枠組みを使用し、看護過程の展開の基礎を学ぶ。紙上事例を使って、情報から根拠のある看護診断を導き、問題解決をはかるための目標を考える。そこから、具体的援助を考えられるようにする。また、促進準備状態の診断についてももてる力を支援できる看護として積極的に考えられるようにする。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する 2. 看護方法論として看護過程を用いることの意義を理解する 3. 紙上事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する 4. 看護過程の各段階についてその基本的な考え方と実際を理解する 5. クリティカルパスについて基本的な考え方を理解する 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. 看護実践における看護過程とは	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の意義について理解する 2) 看護過程の構成要素を理解する 3) クリティカルシンキングについて理解する 			講義
2	2. 看護過程における看護診断と看護成果および看護介入について	1) 「NANDA-I 看護診断の定義と分類」の見方と活用方法について			講義
3 4 5 6	3. アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用いる意味	<ol style="list-style-type: none"> 1) ゴードンの機能的健康パターンについての11の枠組みの意味 2) 情報の整理の仕方 3) アセスメントの考え方 			講義
7	4. 全体像の捉え方と関連図作成の意味	1) 関連図の中に対象者の背景、発達段階、病態、治療、看護上の問題をあげ全体像を可視化する方法			講義 個人ワーク
	5. 看護診断・看護計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の優先順位の考え方 2) 看護計画の立案 3) 対象者の強みを活かした計画を考える 			講義 個人ワーク
	6. 看護実際・評価	1) 看護実践の後のリフレクションから評価・修正			講義 個人ワーク
	学科評価	単位認定試験			
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する				
評価区分	学科項目：1～6 100%				

授業科目名	地域・在宅看護論Ⅰ（概論）	担当講師 担当教員：	(学習項目：1～3) (学習項目：4、5) (学習項目：6、7)		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	地域・在宅看護論の基盤1 地域・在宅看護の実践2 医学書院				
参考文献 関連科目	地域・在宅看護論 在宅看護技術 メヂカルフレンド社 地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社				
ねらい	「暮らし」「地域」について学び、人々の「健康」とのつながりを理解する。また、そこに住む人々の地域に対する思いを把握していく。地域の生活環境が健康に与える影響を学び、人々の健康を守っている多様な看護活動の場と看護の役割について考える。地域で生活する療養者・家族を理解し、在宅看護の概念、役割、社会的意義、社会資源の活用等の、地域・在宅看護論の基礎的な知識を習得していく。				
目標	1. 人々が支え合って生きる「暮らし」や、暮らしの拠点としての「地域」を理解する 2. 地域・在宅看護論の対象の各ライフステージの特徴と、さまざまな健康レベルに合った看護実践の必要性を学ぶ 3. 在宅における家族のとらえ方や、家族形態の個性に応じた家族支援が理解できる				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3 4 5	1. 地域・在宅看護の変遷	1) 地域・在宅看護の原点 2) 日本の地域・在宅看護活動の始まり 3) 地域・在宅看護活動の発展 4) 地域・在宅看護活動の制度化 5) 地域包括ケアの発展			講義・演習
6	2. 人々の暮らしと地域・在宅看護	1) 人々の暮らしの理解 (1) 暮らしを理解する (2) 暮らしでの健康をとらえる 2) 地域看護の役割 (1) 地域・在宅看護の基盤 (2) 地域・在宅看護に求められる考え方・役割 3) 暮らしを理解する			講義・演習
	3. 暮らしの基盤としての地域を理解	1) 暮らしと地域 (1) 地域の定義 (2) 人々の暮らし地域多様性 2) 暮らしと地域を理解するための考え方 3) 地域包括ケアシステムの定義 (1) 自助・互助・共助・公助 4) 対象を理解するモデル (1) 国際生活機能分類 (2) ニューマン・システムモデル (3) コミュニティ・アズ・パートナーモデル			講義・演習

		(5) セルフケア理論 4) 地域を理解する	
7 8 9 10	4. 地域・在宅看護の対象	1) 地域・在宅看護の対象者 (1) 地域・ライフステージ・健康レベルによる多様性 2) 家族の理解 (1) 我が国の家族の現状・変遷 (2) 家族の発達と課題・家族システム (3) 家族介護者への支援とは (4) 家族の意思決定支援とは 3) 家族を理解する	講義・演習
	5. 地域における暮らしを支える看護	1) 暮らしを支える地域。在宅看護 (1) 暮らしを支える看護とは（自立・自律支援） (2) 暮らしを支える看護実践 2) 暮らしの環境を整える看護 3) 地域に広がる看護の対象と提供方法 4) 地域におけるライフステージに応じた看護 5) 地域での暮らしにおけるリスクの理解	講義・演習
11 12 13 14	6. 地域・在宅実践の場と多職種連携	1) 多地域の職種で支える地域での暮らし 2) おもな地域・在宅看護実践の場 (1) 住まい・施設・地域で提供される看護 3) 地域・在宅看護での多職種連携 4) 多職種と連携・協働を考える	講義・演習
	7. 地域・在宅看護における倫理	1) 地域・在宅看護における倫理的問題 (1) 地域・在宅看護における倫理問題 (2) 倫理問題の予防と解決策 (3) 療養者・家族の意思決定 (4) サービス提供者の権利保護	講義・演習
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1～3 40% 学習項目：4、5 30% 学習項目：6、7 30%		

授業科目名	地域・在宅看護論 II (方法論①)	担当講師			
		(学習項目：1) (学習項目：2～3) (学習項目：4)			
開講年次	1年	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論の基盤1 地域・在宅看護の実践2 医学書院				
参考文献	地域・在宅看護論 在宅看護技術 メヂカルフレンド社				
関連項目	地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術 ナーシンググラフィカ				
	地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社				
ねらい	地域・在宅看護の実践のあたり、制度や医療体制を理解する。また、地域・在宅看護実践の主要分野である訪問看護制度における対象者・家族のもてる力を活かした支援を学ぶ。				
目的	1. 地域・在宅看護の実践にあたり各制度（介護保険制度・訪問看護制度など）を理解する 2. 地域・在宅で療養する対象や、家族のアセスメント、もてる力を活かした対象や家族支援の方法を事例を用いて理解していく 3. 地域・在宅看護におけるさまざまな時期的の看護を理解する				
回数	学習項目	学習内容		方法	
1 2	1. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	1) 介護保険・医療保険制度 2) 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 3) 訪問看護の制度 4) 地域保健にかかわる法制度 5) 高齢者に関する法制度 6) 障害者・難病に関する法制度 7) 公費負担医療に関する法制度 8) 権利保障に関連する制度		講義	
3 4 5	2. 地域における暮らしを支える看護	1) 暮らしの場で看護する心構え 2) セルフケアを支える対話・コミュニケーション基本 3) 地域・在宅看護における家族を支える看護 4) 地域・在宅看護における安全をまもる看護 5) 地域・在宅看護実践におけるリスクアセスメント		講義 グループワーク	
	3. 地域・在宅看護の展開	1) 在宅での看護展開・アセスメントの特徴 (1) 対象や家族の思い (2) 生活の場に合わせる (3) 対象や家族をケアする (4) 環境 (5) 経済力や価値観 2) 地域・在宅看護のヘルスアセスメント (1) ICFモデル (2) ストレングス (3) 優先順位		講義 グループワーク	

		3) 「もてる力を支援する看護」の事例展開	
6 7	4. 地域・在宅における時期別の看護	1) 健康な時期の看護 2) 外来受診期における看護 3) 入院時の看護 4) 在宅療養準備期（退院前）の看護 5) 在宅療養移行期の看護 6) 在宅療養安定期の看護 7) 急性増悪期の看護 8) 終末の看護 9) 在宅療養終了期の看護	講義
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1 30% 学習項目：2、3 40% 学習項目：4 30%		

授業科目名	地域・在宅看護論 III (看護技術)		担当講師		
			担当教員:	(学習項目:1)	
				(学習項目:2)	
開講年次	1年	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論の基盤1 地域・在宅看護の実践2 医学書院				
参考文献	地域・在宅看護論 在宅看護技術 メヂカルフレンド社				
関連項目	地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術 ナーシンググラフィカ				
	地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社				
ねらい	地域・在宅看護の対象者は年代が幅広く、それに応じた看護が必要である。そのため多様な健康課題や発達段階に応じた看護を学ぶ。また、事例を用いて、訪問看護のマナーやコミュニケーションを学ぶ。				
目的	1. 在宅で暮らす人の状態、状況に合わせた看護を理解する 2. 在宅で暮らす人の医療処置、医療依存の高い人の看護を理解する 3. 在宅での暮らしを支えるための生活支援と療養者のもてる力を活かした看護や家族支援をするための基礎的看護技術を習得する				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2	1. 暮らしを支える看護技術	1) 訪問看護技術 (家庭訪問・訪問看護) (1) 訪問の手順 (2) 倫理と心構え (3) リスクマネジメント ① 個人情報 ② 感染予防 2) 訪問看護を体験してみよう (紙上事例) (1) 訪問の実際 (訪問時のマナー、コミュニケーション) (2) 臨床判断と対象のもてる力を活かした訪問看護			講義 グループワーク
3 4 5 6 7	2. 医療依存度の高い患者の看護	1) 医療ケアの原理・原則 2) 薬物療法 3) がん化学療法 4) 在宅酸素療法 (HOT) 5) 在宅人工呼吸療法 (HMV) (1) 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) (2) 間欠的陽圧換気療法 (TPPV) 7) 在宅経管栄養 (HEN) 8) 在宅中心静脈栄養法 (HPN) 9) 褥瘡管理 10) 疼痛管理			講義・演習
	学科評価	単位認定試験			
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する				
評価区分	学習項目:1 30% 学習項目:2 70%				

授業科目名	地域・在宅看護論 IV (地域ケアシステム)		担当教員：		(学習項目：1～4)
開講年次	2年	単位数	1	時間数	15
テキスト	地域・在宅看護論の基盤1 地域・在宅看護の実践2 医学書院				
参考文献	地域・在宅看護論 在宅看護技術 メヂカルフレンド社				
関連科目	地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術 ナーシンググラフィカ				
	地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社				
ねらい	地域・在宅で暮らしている人々の健康を守るための疾病予防や健康増進の取組の実際を学ぶ。事業の法的根拠や目的、役割、看護師の役割を理解する。				
目的	1. 医療・福祉・介護関係者との連携・医療・福祉・介護関係者以外の個人・団体・機関との連携やさまざまな視点を理解する 2. 地域包括ケアシステムのプロセスから評価・改善と健康づくりと疾病予防の取り組みについて理解できる				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3 4	1. 地域・在宅看護のシステムづくり (行政)	1) 地域包括ケアシステム 2) 健康づくりと疾病予防のシステム 3) 地域包括ケアシステムと多職種連携 4) 在宅看護におけるケースマネジメント			講義 グループワーク
	2. 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 (さまざまな業種)	1) 看護師が連携・協働において果たす役割 2) 医療・福祉・介護関係者との連携 3) 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 4) 地域共生社会を実現するために			
5 6 7	3. 地域・在宅看護マネジメント	1) 地域・在宅看護マネジメント 2) 多様な場における地域・在宅看護マネジメント 3) 多職種による健康危機・災害マネジメント			講義 グループワーク
	4. 地域・在宅看護活動の創造と展開例	1) 地域・在宅看護活動の創造 2) 「暮らしの保健室」の例			
	学科評価	単位認定試験			
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する				
評価区分	学習項目：1～4 100%				

授業科目名	地域・在宅看護論 V (方法論②)	担当教員：	(学習項目：1) (学習項目：2)
開講年次	2年	単位数	1 時間数 15
テキスト	地域・在宅看護論の基盤1 地域・在宅看護の実践2 医学書院		
参考図書	地域・在宅看護論 在宅看護技術 メジカルフレンド社 地域療養を支えるケア・在宅療養を支える技術 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社		
学習のねらい	地域・在宅で療養している対象や家族の医療ニーズの高い支援について、事例を用いて、その人のもてる力を活かした支援、その人らしく暮らしを営めるような支援を学習する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者や家族に合わせ、対象者や家族の価値観にそった支援を考えることができる 2. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる 3. 在宅療養者のもてる力を理解し、家族の状況に応じた生活支援の方法を理解できる 4. 医療ケアを実施する場合、状況に応じて安全な管理方法を検討・提案できる 5. 対象とその家族が望む暮らしを実現するためのケアマネジメントの展開・社会資源の活用について理解できる 		
回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3 4	1. 地域・在宅看護の事例展開	<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床判断と対象のもてる力を活かした訪問看護の展開 2) 脳梗塞後遺症のある療養者 3) 在宅で老老介護を開始する高齢の療養者 4) 被虐待が疑われている認知症の療養者 	講義 グループワーク
5 6 7	2. 地域・在宅看護の事例展開	<ol style="list-style-type: none"> 1) 筋委縮性側索硬化症 (ALS) の療養者 2) 閉塞肺疾患 (COPD) の療養者 3) パーキンソン病の療養者 4) がん終末期の療養者 	講義 グループワーク
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1 60% 学習項目：2 40%		

授業科目名	精神看護学Ⅰ（精神疾患）				
開講年次	1年次 後期	単位数	1	時間数	15
テキスト	精神看護の基礎				
参考文献	精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 精神障害と看護の実践 メディカ出版				
関連科目	人体の構造と機能 医学書院				
ねらい	精神疾患とは、精神機能の基盤となる心理学的・生物学的・または発達過程の機能不全を反映する個人の認知・情動制御、または行動における臨床的に意味のある障害によって特徴づけられる過程をいう。精神機能が病的になると程度の差はあれ日常的な対人関係に変化や支障をきたす。そのため、対象や家族が多様な場で生活するためには、精神疾患の病態・診断・治療について理解でき看護に活かすことができるように学ぶ。				
目標	1. 主な精神疾患の病態生理、症状、検査、治療について理解できる 2. 主な精神疾患について学び看護について考えることができる				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3 4 5 6 7	1. 主な精神疾患の病態と診断・治療	1. 主な精神疾患/障害 (1) 統合失調症 (2) 双極性障害 (3) 神経症性障害、ストレス関連障害 (4) 不安障害、神経症性障害 強迫性障害 適応障害 強迫性障害 適応障害 (5) パーソナリティ障害 (6) アルコール、薬物、その他の依存症 2. 精神科的診察 (1) 診察 (2) 一般的検査・画像検査 (3) 心理検査 3. 精神疾患の主な治療法 (1) 薬物療法 (2) 電気けいれん法 (3) リハビリテーション療法 (4) 精神療法			講義
8	学科評価	単位認定試験			
評価方法	学科試験	出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する			
評価区分	学科試験	100%			

授業科目名	精神看護学Ⅱ (精神看護学概論 精神保健)	外部講師			
		(学習項目 1～2)			
		(学習項目 3～7)			
開講年次	2年次 前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	精神看護の基礎・展開				
参考文献	精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 情動発達と精神看護の基本 メディカ出版				
関連科目	人体の構造と機能 医学書院 精神保健福祉 メヂカルフレンド社				
ねらい	精神疾患は、医療機関にかかっている患者数は増加傾向にあり、現代社会の特徴としてストレス、うつ病、自殺、依存症など医療や福祉の施策が充実してきている。精神保健では、精神障害の予防・治療・社会参加や精神的健康の保持・増進について学ぶ。また、患者の処遇と人権擁護についても学ぶ。				
目標	1.精神保健の目的と精神保健医療政策を理解する 2.精神保健の入院医療から地域生活への移行を理解する 3.精神（心）の構造と働きについての精神力動理論を理解する 4.現代社会特有の精神保健上の問題の実状と社会的背景を理解する 5.精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇を理解する				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2	1. 精神看護学で学ぶこと	1)精神保健で扱われる現象 (1) 精神障害と精神保健 (2) 日本の精神保健医療政策と方向性 2)精神的健康の保持・増進としての精神保健 3)地域精神保健 (1) 入院医療中心から地域生活中心へ (2) 権利保障 (3) 地域精神保健における第一次予防 ① 第二次予防、第三次予防 (4) リカバリーを機軸した精神医療			講義
	2. 精神（心）の発達に関する主要な考え方	1)エリクソンの漸成的発達理論 2)ボルビイの愛着理論			
3 4 5 6 7	3. 精神（心）のとらえ方	1)脳の構造と認知機能 (1) 脳・神経の構造 (2) 認知機能と神経基盤 ① 意識と注意 記憶 言語 認知 ② 行為 遂行機能（実行機能） ③ 感情 社会的認知			講義

		<p>④ 認知機能の脳半球優位性</p> <p>2) 精神 (心) の構造と働き</p> <p>(1) 精神力動理論・防御機制</p> <p>(2) コフートの自己心理学</p> <p>(3) 対象関係論</p>	
	4. 社会の中の精神障害	<p>1)精神障害と治療の歴史</p> <p>2)精神障害と差別</p> <p>(1) ステイグマ</p> <p>(2) ステイグマとアイデンティティ</p> <p>(3) 心のバリアフリー</p> <p>(4) 障害者差別の解消に向けて</p>	講義
	5. 暮らしの場と精神 (心) の健康	<p>1)精神保健の概念</p> <p>(1) リカバリー・レジリエンス</p> <p>(2) メンタルヘルス</p> <p>2)家族・家庭の精神保健</p> <p>(1) 家族の機能と多様化</p> <p>(2) 夫婦関係</p> <p>(3) 親子関係</p>	講義
	6. 現代社会と精神 (心) の健康	<p>1)現在社会の特徴</p> <p>2)精神保健が関与する社会病理現象</p> <p>(1) ドメスティックバイオレンス</p> <p>(2) ひきこもり</p> <p>(3) 自殺</p> <p>(4) 自傷行為</p> <p>(5) アルコール問題</p> <p>(6) 薬物問題</p> <p>(7) ギャンブル依存</p> <p>(8) IT 依存</p> <p>(9) 犯罪・非行</p>	講義
	7. 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇	<p>1)入院医療の形態</p> <p>(1) 精神保健指定医、特定医師</p> <p>(2) 任意入院・措置入院・医療保護入院</p> <p>(3) 応急入院・通報と移送</p> <p>2)入院患者の処遇と権利擁護</p> <p>(1) 自己決定の尊重、入院患者の基本的な処遇</p> <p>(2) 開放処遇</p> <p>(3) 入院中の行動制限</p> <p>(4) 法の運用と看護ケア</p>	講義
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1～2 30% 3～7 : 70%		

		<p>②看護実践におけるセルフケア理論の適用</p> <p>(3)精神障害をもつ対象のセルフマネジメント</p> <p>①セルフマネジメントの背景</p> <p>②セルフマネジメント疾病教育</p> <p>③服薬自己管理</p> <p>2)事例で学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合失調症 ・ 妄想性障害 ・ 双極性障害 ・ うつ病 ・ アルコール依存症 	
9 10 11	4. 精神障害をもつ対象と「患者－看護師」関係の構築	<p>1)精神障害をもつ対象との関わり方</p> <p>(1) 患者－看護師」関係の目指すこと</p> <p>(2) 患者－看護師」関係を理解するためのがかり</p> <p>(3) 関係構築にあたっての基本的な態度</p> <p>(4) 患者とのかかわりで起こり得ることと対処</p> <p>2)精神障害をもつ対象とのコミュニケーション</p> <p>(1) 精神障害をもつ対象との関係の振り返り</p> <p>① 振り返ることの意味</p> <p>② プロセスレコード</p> <p>③ 書き方と振り返りの実際</p> <p>(2) 自分を振り返る</p> <p>① 自己理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の感情に気づく ・ 肯定的な感情と否定的な感情 ・ 感情と行動との関係 ・ 否定的な感情が生じる背景を考える <p>3)治療的関わりのかえ方</p> <p>(1) コミュニケーションに影響を与える要因</p> <p>(2) 日常生活におけるコミュニケーション</p> <p>(3) 信頼関係を築くためのコミュニケーション</p>	講義
12	5. リエゾン精神看護	<p>1)リエゾン精神看護とは、</p> <p>2)リエゾン精神看護活動</p> <p>3)リエゾン精神看護のケアの実際</p>	講義
13 14	6. 精神障害をもつ対象の地域生活支援の実際	<p>1)地域生活の再構築と社会参加</p> <p>(1) ケアシステムと支援に関する法制度</p> <p>① 地域包括ケアシステム</p> <p>② 障害者総合支援法による自立支援給付と</p> <p>③ 地域生活支援事業</p> <p>(2) 地域生活への移行と生活支援</p>	講義

		<ul style="list-style-type: none"> (3) 社会参加への支援 (4) 当事者への力量を生かす相互支援 (5) 誰もが暮らしやすい地域づくり <p>2)精神障害をもつ対象の地域生活支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 多職種による地域生活支援 (2) 長期入院患者の地域生活への移行支援 (3) 訪問看護を通じた地域生活支援 (4) 就労支援 <p>3)精神障害をもつ対象をケアする家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 精神障害の家族への影響 (2) 家族への支援 	
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目 1~3:60% 4~6:40%		

授業科目名	成人看護学Ⅰ（成人看護学概論）	担当教員	（学習項目：1～4）		
開講年次	1年次 前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	成人看護学総論 成人看護学Ⅰ				
参考文献・ 関連科目	厚生労働省 HP・総務省 HP 教育学 地域・在宅看護論 関係法規 健康支援 等				
学習のねらい	現代社会は危機の時代を迎えている。この危機の時代を生きる大人は、自身の健康をまもり、生活や環境の変化に対応しつつ、日々仕事に従事し、将来への不安や脅威に立ち向かい家族の幸せを求め、懸命に働き家庭を築き守っている。成人看護学では、対象理解のために「大人」とはどのような人たちか、どのような健康問題を抱えるのかを学んだうえで、このような「大人」を対象にその人にとって最適な健康を維持・促進するための看護援助を学ぶ。また、「大人」の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象である成人、「大人」について理解することができる 2. 人の心身の発達と社会や環境、生活の視点から「大人」を理解することができる 3. 「大人」の健康を守り、はぐくむ保健・医療・福祉システムの概要と動向について理解する 4. 成人看護の基本となる考え方や「大人」の学習理論に基づいて行動変容を促進する方法を理解できる 5. 成人の健康レベルや状況に対応した看護が理解できる 				
回数	学習項目	学習内容	方法		
1	1. 成人の定義とライフサイクルからみる成人	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「成人看護学」の特徴 2) 対象の理解「大人になること、大人であること」「成人」であるということ 	講義 演習		
2	2. 成人への看護アプローチの基本	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康生活を支える人間関係の構築 2) 学習者としての成人の特徴を理解する（成人教育学の概念：アンドラゴジーモデル） 3) 行動変容を促進する看護アプローチ 4) 症状マネジメントとは 5) 成人の健康状態に応じた看護 	講義 グループワーク 事例（例として糖尿病や高脂血症など）を用いながら考えていく。		
3	3. 成人の生活	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生活とは何か ～成人各期における生活の特徴～ 2) 成人の生活の理解 ～働いて生活を営むこと～ ① 成人期に対象の労働の意味と価値を理解する。 ② 家族の発達段階で変わる家族の役割を理解する。 3) 成人期にある人が健康障害をもつことの意味 4) 成人と死 	講義		
4 5 6 7	4. 成長発達の特徴・発達段階	<ol style="list-style-type: none"> 1) 成人期の発達課題と関連する理論 ・エリクソン・ハビィガースト・レビンソン 2) 成人各期の特徴と健康問題 青年期・壮年期・向老期 <p>●事例をもとに各期の理論から身体的・心理的特徴を踏</p>	講義 演習 発表		

		まえ、健康問題・看護について考える	
8	学科評価	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目 1～4 : 100%	

授業科目名	系統別看護Ⅰ（成人看護学Ⅱ） （呼吸・循環・身体防御）	担当講師 （学習項目：2） 担当教員 （学習項目：1・3）	
開講年次	1年	単位数 1 時間数 30	
テキスト	呼吸器 成人看護学2 医学書院 循環器 成人看護学3 医学書院 血液・造血器 成人看護学4 医学書院 アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学11 医学書院		
参考文献 関連科目	解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院 看護形態機能学		
学習のねらい	成人・老年というものの概念を把握したうえで、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを理解し、それぞれの系統にそって学習する。また、加齢による身体的変化や特徴を理解し、看護につなげることができる。		
目標	1. 呼吸器障害のある対象の看護を理解する 2. 循環機能障害のある対象の看護を理解する 3. 身体防御機能の障害のある対象の看護を理解する		
回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3 4 5	1. 呼吸機能障害のある対象の看護	1) 肺がん・肺炎・結核・COPD・間質性肺疾患・睡眠時無呼吸症候群・喘息・気胸 (1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 (2) 検査・処置を受ける対象の看護（胸部レントゲン・CT・胸腔穿刺・気管支鏡・動脈血液ガス分析など） 2) 治療を受ける対象の看護（肺切除術・人工呼吸器・化学療法・放射線療法・胸腔ドレナージ・気管切開など）	講義
6 7 8 9 10	2. 循環機能障害のある対象の看護	1) 心不全・狭心症・心筋梗塞・弁膜症・不整脈・大動脈解離・大動脈瘤・動脈系疾患・リンパ系疾患・心膜炎・心筋炎 2) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 （ポンプ機能障害・刺激伝導系障害） 3) 検査・処置を受ける対象の看護（心電図・心臓カテーテル・心エコー・血行動態モニタリングなど） 4) 治療を受ける対象の看護（PCI・CABG・ペースメーカー・大動脈瘤ステントグラフト内挿術・TAVI・弁置換術など）	講義
11 12 13 14	3. 身体防御機能の障害のある対象の看護 （血液・造血器 アレルギー・膠原病・感	1) アレルギー（蕁麻疹・接触性皮膚炎・薬物、ラテックスアレルギーなど） 膠原病（関節リウマチ・エリテマトーデス・強皮症・皮膚筋炎など）	講義

	染症	骨髓機能障害（造血器腫瘍など） 感染症（低体温・高体温） (1) 症状とその病態生理・アセスメント看護 (2) 検査・処置を受ける対象の看護（スキンテスト・粘膜、 皮膚生検・骨髓穿刺） 2) 治療を受ける対象の看護（減感作療法・免疫抑制剤・ステ ロイド療法・造血幹細胞移植・抗ヒト免疫不全ウイルス＜ HIV＞療法）	
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1 40% 学習項目：2 40% 学習項目：3 20%		

授業科目名	系統別看護Ⅱ（成人看護学Ⅲ） （消化器・内分泌・代謝）	担当講師 (学習項目 1) 担当教員： (学習項目 2)	
開講年次	2年	単位数 1 時間数 15	
テキスト	消化器 成人看護学5 医学書院 内分泌・代謝 成人看護学6 医学書院		
参考文献 関連科目	解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院 看護形態機能学		
学習のねらい	成人・老年というものの概念を把握したうえで、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを理解し、それぞれの系統にそって学習する。また、加齢による身体的変化や特徴を理解し、看護につなげることができる。		
目標	1. 消化・吸収機能障害のある対象の看護を理解する 2. 内分泌・代謝機能障害のある対象の看護を理解する		
回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3 4	1. 消化・吸収機能障害 のある対象の看護	1) 口腔・咽頭腫瘍（舌がん、咽頭がん、喉頭がん） 上部消化管腫瘍（食道がん・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃がん） 下部消化管腫瘍（大腸がん） 腸・腹膜疾患（潰瘍性大腸炎・偽膜性腸炎・クローン病・腸閉塞） 食道静脈瘤・肝臓・胆道系・膵臓（肝炎・肝硬変・肝臓がん・胆 のう炎・胆管炎・膵炎・膵臓がん） (1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 （腹痛・嘔気・嘔吐・吐血・下血・下痢・便秘・腹水・黄疸・意 識障害＝肝性脳症） (2) 検査・処置を受ける対象の看護（上部・下部内視鏡検査・放射 線検査＝MRCP、DIC、PTC、ERCP、肝生検・腹腔鏡・腹部 超音波など） 2) 治療を受ける対象の看護（イレウス管挿入中の看護、 食道・胃・大腸切除術、肝切除術、肝動脈塞栓術、インターフェ ロン療法） 3) 臓器移植と看護（生体肝移植）	講義
5 6 7	2. 内分泌・代謝機能障 害のある対象の看護	内分泌機能障害（甲状腺機能障害・副腎機能障害・下垂体機能障害） 代謝疾患（糖尿病）高尿酸血症・脂質異常症・肥満 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護 3) 治療を受ける対象の看護（甲状腺ホルモン療法・甲状腺切除術な ど）	講義
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1 60% 学習項目：2 40%		

授業科目名	老年看護学 I		担当教員			
開講年次	1年次 前期～後期		単位数	1	時間数	15
テキスト	老年看護学 I 医学書院					
参考文献 参考図書	看護学概論・成人看護学概論 国民衛生の動向 (2022) 老年看護学概論/老年保健 メジカルフレンド社 高齢者の健康と障害 メディカ出版					
ねらい	<p>老年期にある対象を身体的・社会的・精神的に捉え、発達段階にある老年期の特徴を理解し、日本の高齢社会における保健・医療・福祉サービス、看護の役割について学んでいく。治療の場である病院や療養のための施設、住み慣れた場である居宅等、高齢者の生活の場は多岐にわたる。生活者として捉えるためのアセスメントの視点や、その人らしい生活が送れるように、高齢者のもてる力を活用した援助方法を学習する。</p>					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な場所における老年期にある対象の身体的・社会的・精神的特徴を理解する 2. 高齢者の保険・医療・福祉について知り、老年看護の役割を学ぶ 3. 高齢者が最期までその人らしく生きていけるための看護師の役割が理解できる 4. 高齢者体験を通して、身体的変化や日常生活の中の変化を体感することで、援助に結びつけていくことができる 5. 高齢者の生活機能と包括的アセスメントの視点、評価について理解できる 					
回数	学習項目	学習内容			方法	
1 2	1. 老いるということ、老いを生きるということ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「老いる」ということ <ol style="list-style-type: none"> (1) 加齢と老化 (2) 加齢に伴う心理的側面の変化 (3) 創造性 (4) 加齢に伴う社会的側面の変化 2) 老いを生きるということ <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者の定義 (2) 発達と成熟 3) 高齢者疑似体験 			講義 演習	
3 4 5	2. 超高齢社会と社会保障	<ol style="list-style-type: none"> 1) 超高齢社会の統計的輪郭 <ol style="list-style-type: none"> (1) 超高齢社会の現況 (2) 高齢者と家族 (3) 高齢者の健康状態 (4) 高齢者の死亡 (5) 高齢者の暮らし 2) 高齢社会における保健医療福祉の動向動の多様化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 (2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 3) 高齢者の権利擁護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者に対するスティグマと差別 (2) 高齢者虐待 (3) 身体拘束 				

		(4) 権利擁護のための制度	
6	3. 老年看護のなりたち	1) 老年看護のなりたち (1) 老年看護学教育の発展 (2) 老年看護の定義 2) 老年看護の役割 (1) 老年看護における理論の活用 (2) 老年看護に役立つ理論・概念 3) 老年看護における理論・概念の活用 4) 老年看護に携わる者の責務	
7	4. 高齢者のヘルスアセスメント	1) ヘルスアセスメントの基本 (1) ヘルスアセスメントの枠組み 2) 身体に加齢変化とアセスメント (1) 皮膚とその付属器、視聴覚とそのほかの感覚、循環系、呼吸器系、消化器系、ホルモンの分泌、泌尿生殖器 運動系	
8	学科評価	単位認定試験	
評価方法	授業の出席時間および授業態度 授業中に提示した課題		
評価区分	100%		

授業科目名	系統別看護Ⅲ (老年看護学Ⅱ) (脳・運動・感覚器)	担当教員： (学習項目：1) (学習項目：2) (学習項目：3)		
開講年次	2年	単位数	1	時間数 30
テキスト	成人看護学⑦⑩⑬⑭⑮			
参考文献・関連科目	解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院 形態機能学			
学習のねらい	成人・老年というものの概念を把握したうえで、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかをそれぞれの系統にそって学習する。また、加齢による身体的変化や特徴を理解し、看護につなげることができる。			
目標	1. 脳・神経機能障害のある対象の看護を理解する 2. 運動機能障害のある対象の看護を理解する 3. 感覚機能障害のある対象の看護を理解する			
回数	学習項目	学習内容	方法	
1 2 3 4 5 6 7	1. 脳・神経機能障害のある対象の看護	脳血管障害・脳腫瘍・感染症(脳炎・髄膜炎)・頭部外傷・脊髄損傷・重症筋無力症・ギランバレー症候群 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 (生命維持活動調節機能障害、運動・感覚機能障害・言語機能障害・高次脳機能障害) 2) 検査・処置を受ける対象の看護(脳波・髄液検査・脳血管造影) 3) 治療を受ける対象の看護(開頭術・尖頭術・血管バイパス術・血管内治療・脳室ドレナージ・脳室-腹腔<V-P>シャント術・低体温療法) 4) 脳死と臓器移植と看護 5) 事例を用いての演習	講義 演習	
8 9 10	2. 運動機能障害のある対象の看護	骨折(鎖骨・肋骨・上腕骨・大腿骨など)・脱臼・骨腫瘍および軟部腫瘍)・アキレス腱断裂など 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護 3) 治療を受ける対象の看護	講義	
11 12 13 14	3. 感覚機能障害のある対象の看護	突発性難聴・メニエール病・副鼻腔炎・網膜剥離・緑内障・白内障・糖尿病網膜症 1) 症状とその病態生理・アセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護 3) 治療を受ける対象の看護 4) 失明をした患者の看護 5) 糖尿病網膜症の患者の看護	講義	
15	学科評価 まとめ	単位認定試験		
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する			
評価区分	学習項目1:40% 学習項目2:30% 学習項目3:30%			

授業科目名	系統別看護Ⅳ（老年看護学Ⅲ） （性・生殖・排泄機能障害）	外部講師 （学習項目：2） 担当教員 （学習項目：1）	
開講年次	2年	単位数 1 時間数 15	
テキスト	成人看護学⑧⑨		
参考文献 関連科目	解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院 形態機能学		
学習のねらい	成人・老年というものの概念を把握したうえで、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態におかれるかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを理解し、その時の患者のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかをそれぞれの系統にそって学習する。また、加齢による身体的変化や特徴を理解し、看護につなげることができる。		
目標	1. 性・生殖機能障害のある対象の看護を理解する 2. 排泄障害のある対象の看護を理解する		
回数	学習項目	学習内容 方法	
1 2 3	1. 性・生殖機能障害 のある対象の看護 （前立腺含む）	乳癌・子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣嚢腫・卵巣癌・前立腺炎・前立腺肥大・前立腺がん 1) 症状とその病態生理・アセスメント看護（えくぼ徴候、月経過多、不正性器出血、血性帯下、貧血、排尿障害、腹部膨満、下腹部痛、排尿障害、頻尿、残尿感など） 2) 検査・処置を受ける対象の看護（マンモグラフィ、内診、視診、超音波断層検査、子宮卵管造影、MRI、子宮鏡、腹腔鏡など） 3) 治療を受ける対象の看護（手術療法、化学療法、放射線療法、ホルモン療法など）	講義
4 5 6 7	2. 排泄機能障害のあ る対象の看護 （前立腺以外）	腎・尿路結石・腫瘍（腎がん・膀胱がん）腎不全 1) 症状とその病態生理・アセスメント看護 2) 検査・処置を受ける対象の看護 3) 治療を受ける対象の看護（血液透析・腹膜透析） 4) ストマの装着、創傷処置技術（褥瘡・フットケア⇒VAC療法）	講義 講義演習
8	学科評価	単位認定試験 単元ごとに評価する	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目:1 40% 学習項目:2 60%		

授業科目名	小児看護学Ⅰ（子どもを取り巻く環境）		担当講師：（学習項目：1～6）		
開講年次	1年	単位数	1	時間数	15
テキスト	小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院				
参考図書	根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院				
ねらい	わが国の小児看護の変換、子どもを取り巻く社会環境の変化や健康問題を理解し、子どもの健康保持増進のための保健・医療・福祉活動と看護の役割を学ぶ。また、成長発達ごとの小児の形態機能・心理社会的機能の特徴と家族の機能について個人ワークを取り入れて学習する。さらに、現代における小児と家族の諸問題についてグループワークにより見識を深めるとともに、小児看護学を学ぶ者として課題を見出し発展学習につなげていく。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達を理解し、小児各期の特徴を理解する 2. 小児各期の特徴に適した生活と養護を理解する 3. 現代社会の中で子どもを取り巻く問題とその対象が理解できる 4. 小児保健統計を踏まえ、地域で暮らし育つ子どもを支える法律や保健対策を学び、看護の役割を理解する 				
回数	学習項目	学習内容		方法	
1	1. 小児看護の特徴と理念	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の対象 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「子ども」とは (2) 子どもと家族・社会 2) 子どもを理解するための発達理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 認知発達理論、自我発達理論、愛着理論など 3) 小児看護・児童観・育児観の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児医療と看護の変遷～現代の小児看護 (2) 小児看護学の独立や小児専門病院の誕生前とその後の変化 		講義	
2	2. 小児医療・小児看護における倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の理念 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児看護の役割と責務・課題 2) 子どもの権利と親の責任 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの権利（人権・決定権） <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの権利条約（4つの権利） ②児童憲章 3) 看護の業務と責務 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利と必要な看護行為 <ol style="list-style-type: none"> ①プレパレーション ②インフォームドアセント ③アドボカシー 		講義	

3 4	3. 小児の成長発達と看護	1) 成長と発達 (1) 発達の定義と原理原則 (2) 成長発達に影響する因子 (3) 成長発達の評価 (4) 小児の栄養 2) 各発達段階の成長と発達 (1) 《新生児期・乳児期》 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴（原子反射） ③各機能の特徴 ④養育および看護（日常生活の世話、事故防止） (2) 《幼児期・学童期》 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴（遊びの発達と社会性、不慮の事故） ③養育および看護（日常生活の自立と世話、生活習慣病の予防、安全教育） (3) 《思春期・青年期》 ①形態的特徴 ②身体的特徴（第二次性徴） ③各機能の特徴 ④心理・社会的適応に関する問題（自殺、いじめ、不登校、引きこもり） ⑤思秋期の看護	講義・演習 グループワーク
5	4. 子どもにとっての家族の役割	1) 子どもと家族の生活 (1) 子どもと家族 (2) 子どもをもつ家族のアセスメント	講義・演習 グループワーク
	5. 小児と家族を取り巻く社会	1) 子どもと保健；統計からみた子どもの健康 (1) 出生率 (2) 乳児死亡 (3) 子どもの死亡 (4) 子どもの疾患・異常被患率 2) 子どもを保護する法律と保健対策 (1) 児童福祉 (2) 母子保健 (3) 医療費の支援 (4) 予防接種 (5) 学校保健 (6) 特別支援教育 (7) 臓器移植法	講義・演習 グループワーク
6 7	6. 小児のアセスメント	1) 小児のアセスメントに必要な技術 (1) 子どものバイタル測定・フィジカルアセスメント (2) 成長発達段階に合わせたコミュニケーション	講義・演習 グループワーク
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1～6 100%		

授業科目名	小児看護学Ⅱ (子どもの健康問題と看護)	担当講師： ： 担当教員：	(学習項目：1) (学習項目：2～5) (学習項目：6)
開講年次	1年	単位数	1 時間数 30
テキスト	小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院		
参考文献	子どもの病気の地図帳 医学書院		
関連科目	小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社		
ねらい	小児は健康状態における看護だけでなく、年齢相応の日常生活の世話により、健康回復への支援や成長発達を継続する視点と合わせた統合的な見地から小児と家族に必要な看護を行うことが大切である。小児に特有な疾患の病態・治療について中心として、また様々な状況下にある子どもと家族についての現状を学び、必要な社会資源や制度をふまえ、子どもや家族に必要な看護について学習する。		
目標	1. 小児疾患をもつ患児に必要な、主な疾患・診断・治療について理解できる。 2. 健康障害が子どもとその家族におよぼす影響と反応を知り、発達段階に合わせた看護の役割について理解できる。 3. 健康の段階に応じた子どもとその家族の看護方法を理解し、健康上の問題を解決するための思考過程を明確にすることができる。		
回数	学習項目	学習内容	方法
1	1. 子どもの健康障害 小児特有の病態と診断・ 治療	1) 染色体異常 (胎内環境により発症する先天異常)	講義
2		(1) ダウン症 (2) ターナー症候群	
3		(3) クラインフェルター症候群 (4) 口蓋裂	
4		2) 新生児の疾患	
5		(1) 分娩外傷 (2) 適応障害 (3) 感染症	
6		(4) 低出生体重児の疾患 (5) 成熟異常	
7		3) 感染症	
8		(1) 細菌感染症 (2) ウイルス感染症	
		4) 循環器系疾患	
		(1) ファロー四徴症 (2) 先天性後天性心疾患	
		(3) 川崎病	
		5) 呼吸器疾患	
		(1) 上気道の疾患 (2) 急性気管支炎	
		(3) 細気管支炎 (4) 肺炎	
		6) 消化器系疾患	
		(1) 肥厚性幽門狭窄 (2) 腸重積 (3) 鎖肛	
		(4) ヒルシュスプルリング (5) 乳幼児下痢症	
		7) 腎・泌尿器系疾患	
		(1) 腎炎 (2) ネフローゼ症候群	
		(3) 慢性急性腎臓病	
		8) 代謝性疾患	
		(1) I型糖尿病 (2) アセトン血症	

		<p>9) 免疫・アレルギー性疾患 (1) 気管支喘息 (2) 食物アレルギー</p> <p>10) 血液疾患 (1) 白血病 (2) 血友病</p> <p>11) 神経系疾患 (1) てんかん (2) 熱性けいれん (3) 脳性麻痺 (4) 髄膜炎 (5) ギランバレー症候群 (6) 小児の言語障害 (吃音) (7) 筋ジストロフィー</p> <p>12) 運動系疾患 (1) 先天性股関節脱臼・内反足 (2) 骨折</p> <p>13) 悪性新生物 (1) 造血器腫瘍 (2) 脳腫瘍 (3) その他固形腫瘍</p> <p>14) 精神・心身の疾患 (1) 発達障害 (2) チック症 (3) PTSD (4) 食行動障害および摂食障害</p> <p>15) 事故と外傷 (1) 頭部外傷 (2) 誤飲 (3) 溺水 (4) 熱傷</p> <p>16) 感覚器系 (1) 母斑 (2) 蕁麻疹 (3) 伝染性膿痂疹 (4) 睫毛内反 (5) 外耳の奇形 (6) アデノイド増殖症</p>	
9 10 11	2. 病気・障がいをもつ子どもと家族の看護	<p>1) 病気・障がいが子どもと家族に与える影響 (1) 病気・障がいに対する子どもの反応 (2) 子どもの病気・障がいに対する家族の反応</p> <p>2) 子どもの健康問題と看護健康問題を持つ家族の看護と方向性 (1) 子どもの治療・健康管理に関わる看護 (2) 子どもの日常生活にかかわる看護</p>	講義
	3. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	<p>1) 外来における子どもと家族の看護 (1) 外来の（健康増進・一般・専門・救急）の特徴と看護 (2) 子どもの入院支援</p> <p>2) 入院における子どもと家族の看護 (1) 入院が子どもと家族に及ぼす影響 (2) 子どもの入院環境</p>	講義
	4. 子どものさまざまな疾病の経過における看護	<p>1) 急性期にある子どもと家族への看護 (1) 急性症状のある子どもと家族の看護 (2) 救命救急処置が必要な子どもと家族への看護 （誤飲（誤嚥）・熱傷・溺水など） ①乳幼児の意識レベル</p>	講義

		<p>(3) 手術を受ける子どもと家族の看護 ①計画手術 ②日帰り手術 ③子どもの痛み</p> <p>2) 慢性的な疾患・障がいがある子どもと家族への看護 (1) 先天性疾患や慢性的な経過をとる疾患をもつ子どもと家族への看護 ①子どもの疾患に対する家族の受容と援助 ②疾患による子どもと家族の生活の変化 ③多職種連携・地域連携・学習支援・復学支援 ④成人診療科へのスムーズな転科を見据えた移行支援（トランジション）</p> <p>(2) 心身障害のある子どもと家族の看護 (3) 医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護 ①入院生活から在宅への移行に向けた支援 ②多職種との連携と社会資源の活用</p> <p>3) エンド・オブ・ライフにある子どもと家族への看護 (1) 子どもの死の理解と看護 (2) 子どもと家族への緩和ケア (3) 子どもを看取る家族のケア</p>	
	5. 検査や処置を受ける子どもの看護	<p>1) 子どもにとっての検査・処置体験 (1) 検査を受ける子どもの反応とプレパレーション (2) 検査処置の前・中・後の観察と安全安楽への看護 (3) 検査処置を受ける子どもの家族への看護</p>	講義
12 13 14	6. 症状を示す子どもの看護	<p>1) 子どものおもな症状と看護 (1) 不機嫌 (2) 啼泣 (3) 痛み (4) 発熱 (5) チアノーゼ (6) 嘔吐・下痢 (7) 便秘 (8) 脱水 (9) けいれん</p> <p>2) 子どもと家族のアセスメント (1) 全体像を把握 (2) 臨床診断（看護問題の抽出） (3) 看護援助を考える（プレパレーション実施）</p>	講義・演習 グループワーク
15	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	<p>学習項目：1 50%</p> <p>学習項目：2～5 25%</p> <p>学習項目：6 25%</p>		

授業科目名	小児看護学Ⅲ（健康障害をもつ新生児～思春期の子どもと家族の看護）	担当講師：	(学習項目：3)		
		担当教員：	(学習項目：1～2)		
開講年次	2年	単位数	1	時間数	15
テキスト	小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院 地域在宅看護論 母性看護学概論・各論 医学書院				
参考文献 関連科目	子どもの病気の地図帳：医学書院				
学習のねらい	医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うことになったが、一方で子どもの病気は重症化し、入院生活を余儀なくされることもある。また、ノーマライゼーションの思想から、重度心身障碍児や医療的ケアが必要な子どもの在宅医療が進められている。こうした状況の中で、21世紀を担う子どもたちが最善の利益を守られ、地域において生き生きとその子らしく生活できるように、様々な健康状態にある子どもの成長・発達と生活する場による子どもたちの違いからその子らしさを理解し、その援助について学ぶ。また、既習授業で学んだ小児看護学から、行動の根拠となる知識を再確認しながら判断する過程を繰り返し、子どもを支える家族と共に、子どもの最善の利益を守ることを理解し、それぞれの子どもに適した看護の方法を習得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな症状を示す子どもと家族の看護を理解する 2. 子どもの状況に合わせた必要な看護について理解する 3. 疾病の経過に応じた子どもと家族の看護を理解する 4. 疾病をもち、地域で生活・療養する子どもと家族について理解する 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2	1. 健康障害別看護 (健康問題と心理的・社会的問題を抱えた子どもと家族の看護)	<ol style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク新生児の集中治療と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> ①胎外生活への適応を支える看護 (体温・呼吸・循環の調整、水分・電解質) ②低血糖予防・感染予防 (2) 成長発達を支える看護 <ol style="list-style-type: none"> ①ふれあい・安楽な姿勢保持 ②授乳 ③環境調整 ④支援体制の整備 ⑤家族への説明と家族の思い ⑥親子・家族関係の促進 2) アレルギー・免疫疾患をもつ子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 食物アレルギー (2) 気管支喘息 <ol style="list-style-type: none"> ①喘息症状のコントロール（自己管理促進） ②アドビアランス向上への支援 (3) 若年性特発性関節炎（急性期～寛解期） 3) 消化器疾患のある子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 消化器疾患による影響 			講義 グループワーク

		(2) 先天性の形態異常 (唇裂・口蓋裂)	
3	2. 特別な状況にある子どもと家族への看護	1) 地域に戻り医療的ケアを受けながら生活する子どもと家族の看護 (1) 子どもの在宅療養の環境 ①健康状態・生活状況の把握 ②医療的ケア (吸引・経管栄養・在宅酸素) ③保育園・学校などの支援システム ④多職種との連携と社会資源の活用 2) 虐待を受け子どもと家族の看護と支援 (1) 虐待の現状と対策の経緯 (2) 子どもの虐待とは (3) リスク要因と発生予防・早期発見 (4) 特徴的にみられる状況 (子ども・養育者) (5) 求められるケア (支援体制の確立) (6) 多機関・他職種の連携および協働	講義 グループワーク
4 5 6 7	3. おもな疾患をもった子どもと家族の看護	1) 脳・神経系疾患と看護 (1) てんかん (2) 熱性けいれん (3) 脳腫瘍 (4) 意識障害 (5) 筋疾患 (6) ギランバレー症候群 (7) 二分脊椎症 2) 感染症と看護 (1) 感染症の子どもと家族の基本的看護 (2) 主な疾患 (ウイルス・細菌・真菌・その他の病原体) 3) 血液・造血器疾患、悪性新生物と看護 (1) 特発性血小板減少性紫斑病 (2) 血友病 (3) 貧血 (4) ウイルムス腫瘍 (5) 白血病 (6) 神経芽腫 4) 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 (1) 腎炎 (2) ネフローゼ症候群 (3) 尿路感染症 (4) 先天性奇形 (水腎症など) 5) 代謝性疾患 (1) I型糖尿病…子どもと家族への指導 6) 循環器疾患と看護 (1) 先天性心疾患 (ファロー四徴症・心室中隔欠損症) (2) 川崎病 (3) 急性心筋炎	講義 グループワーク
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1～2 40% 学習項目：3 60%		

授業科目名	母性看護学 I	担当講師 (学習項目：1～7)			
開講年次	1年	単位数	1	時間数	30
テキスト	母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院				
参考文献 関連科目	国民衛生の動向 厚生統計協会 病気がみえる⑨ メディックメディア				
ねらい	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、女性のライフサイクル各期の特徴や発達課題などから対象を生理的、病理学的に理解し、各期における女性の健康問題とその看護の基礎的知識について学ぶ。人間の性と生殖について理解し、母性看護における意義・生命倫理・看護倫理・責務・看護師の役割について学ぶ。また、母性看護の歴史的変遷と現状を母子統計、法律などから学び母性看護学の役割を理解する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性を取り巻く社会状況の変化を知り、現代社会における母性の概念を理解する。 母性看護の変遷・動向を理解し、母性看護の役割および今後のあり方について理解する。 母性看護の目的をリプロダクティブ/ライツの観点から理解する。 性と生殖の意義、生殖医学に関する生命倫理について考えを深められる。 母性看護の対象を身体的・社会的・心理的側面から理解する。 女性のライフサイクル各期の健康問題とその看護を理解する。 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3 4	1. 母性看護の基盤となる概念	<ol style="list-style-type: none"> 生殖に関する生理 母性とは、父性とは（広義と狭義） 母子関係と家族関係（家族発達） <ul style="list-style-type: none"> (1) 母性関係の確立 (2) 愛着 (3) 母子相互作用 			講義 グループワーク
	2. 人間の性	<ol style="list-style-type: none"> セクシュアリティ <ul style="list-style-type: none"> (1) 性の多様性 (2) 性分化疾患 リプロダクティブ/ライツの概要 母性看護のあり方 			講義 グループワーク
	3. 母性看護の倫理	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護における倫理 			講義 グループワーク
	4. 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の変遷と現状 <ul style="list-style-type: none"> (1) 母性看護の歴史的変遷 (2) 母子保健施策 (3) 母性看護に関わる法律 <ul style="list-style-type: none"> ①健やか親子 21 および子育て支援 ②働く女性と社会環境 			講義 グループワーク

5 6 7 8 9 10 11	5. 母性の対象理解	1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 3) 母性の発達・成熟・継承 4) リプロダクティブヘルスケア (1) 家族計画 (2) 性感染症とその予防 (3) 人工妊娠中絶と看護 ①産む性、産まない性、産めない性 : 女性の選択 (4) 喫煙女性の健康と看護 (5) 性暴力を受けた女性に対する看護 (6) HIVに感染した女性に対する看護 (7) 国際社会と母子保健	講義 グループワーク
12	6. 女性のライフサイクル各期の特徴と看護	1) ライフサイクル各期における看護 (1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 (2) 思春期・成熟期・更年期・老年期の女性の特徴と看護	講義 グループワーク
13 14	7. 母性看護の展望と課題	1) 母性の生命倫理から今後の展望・課題を考える (1) 母性看護学授業の学びから考える	講義 グループワーク
15	学科試験	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する	
評価区分		学習項目：1～7 100%	

授業科目名	母性看護学Ⅱ (妊娠～分娩期・褥婦と新生児の看護)	担当講師 (学習項目：1～4)			
開講年次	1年	単位数	1	時間数	15
テキスト	母性看護学② 母性看護学各論 医学書院				
参考文献 関連教科	病気がみえる⑩産科 メディックメディア ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院 母乳育児支援スタンダード 医学書院 妊産婦のケア 医歯薬出版				
ねらい	妊娠・分娩・産褥各期における対象の身体的、心理的社会的変化について理解し、それらの変化が円滑に適應するための必要な日常生活援助や安全安楽の援助方法を学ぶ。また、胎児の發育発達について妊娠の経過にそって理解し、妊娠各期に応じた保健指導の必要性和その方法を学ぶ。妊娠・出産・産褥の一連の過程から新生児に至るまでの正常な経過と以上について考え学ぶことで、母子の健康を維持・促進し、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話することができるように援助する方法を学ぶ。				
目標	1. 正常な妊娠・分娩・産褥経過を理解する 2. 周産期にある母子、家族の心理的・社会的特徴と看護を理解する 3. 新生児の生理を理解する 4. 新生児に必要な看護を理解する				
回数	学習項目	学習内容			方法
1 2 3	1. 妊娠期における看護	1) 妊娠の生理と妊婦の看護 (1) 妊娠期における看護師の役割 (2) 妊娠期の身体的特性 ①妊娠とは ②妊娠の成立、胎盤の形成と胎児の發育 ③母体生理的变化 2) 妊娠期の心理・社会的特性 (1) 妊婦の心理、妊婦と家族および社会 3) 妊婦と胎児のアセスメント (1) 問診、外診、内診、臨床検査、 日常生活に関するアセスメント ①妊婦の不快症状 ②妊婦の日常生活とセルフケア 4) 妊婦と家族の看護 (1) 母子保健サービス、保健相談 (2) 出産・育児の準備 (親になるための準備) 5) 妊娠の異常と看護 (1) 妊娠悪阻 (2) 妊娠貧血			講義 グループワーク

4 5	2. 分娩の生理と看護	1) 分娩の生理と産婦の管理 (1) 分娩の定義 (2) 分娩の三要素 (3) 分娩の経過と分娩機転 (4) 分娩促進への看護 2) 産婦・胎児の健康のアセスメントと看護 (1) 分娩・が母子におよぼす影響 (2) 産婦と家族の心理・社会的状態 (3) 分娩各期の看護 ①産婦の基本的ニーズへの支援 ②産痛緩和への看護 ③産婦と家族の心理への看護	講義 グループワーク
6	3. 産褥の生理と褥婦の看護	1) 異常分娩をきたした産婦の看護 (1) 弛緩出血と看護 (2) 微弱陣痛と看護 (3) 破水と看護 2) 産褥期の定義 3) 産褥期の身体的特徴 (1) 退行性変化 (2) 進行性変化 4) 褥婦と家族の身体的・心理的・社会的変化 5) 褥婦の健康と生活のアセスメントと看護 (1) 産褥復古促進の援助の理解 (2) 母乳栄養の確立 (3) 褥婦の日常生活とセルフケア ①親役割への支援 ②育児技術獲得への支援	
7	4. 新生児の看護	1) 早期新生児の特徴と看護 (1) 早期新生児の定義と特徴 2) 早期新生児の健康発育アセスメント (1) 身体各機能の評価 ①成熟度評価 ②アプガースコア 3) 早期新生児と家族への看護 (母子相互作用を促す援助) (1) 保育環境 (2) 保温 (3) 全身の観察 (4) アタッチメント (5) 感染・事故防止	
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1～4 100%		

	5. 新生児の異常と看護	1) 新生児の健康問題 (1) 健康逸脱した新生児の看護 ①高ビリルビン血症 (光線療法) ②低血糖 ③分娩外傷 ④分娩仮死 (2) 低出生体重児	
3 4	6. 母性看護における看護技術	1) 妊・産・褥婦の計測および授乳指導 (1) 妊婦の腹囲 (2) レオポルド触診法 (3) 子宮底測定 (子宮復古の観察) (4) 直接授乳時のポジショニングと吸着の看護 2) 新生児の計測・沐浴 (1) 新生児のバイタルサインの測定 (2) 沐浴	講義・演習
5 6 7	7. 周産期にある対象の看護過程の展開	1) 母性看護における対象を理解し看護につなげる (1) ウェルネス診断 (志向) とは (2) 周産各期におけるアセスメント項目と診断に必要な視点 (3) 新生児期のアセスメント項目と診断に必要な視点 ※各自がアセスメントをしてきた上で、看護の方向性および妊娠期の保健指導場面の関りについてグループワーク	講義 グループワーク
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価する		
評価区分	学習項目：1～6 60% (技術レポート含む) 学習項目：7 40%		

授業科目名	看護の統合と実践 I (看護研究①)		担当教員	担当教員：一		
開講年次	2年次 前期		単位数	1	時間数	15
テキスト						
参考文献 関連科目	よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版 日本看護協会出版 https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/index.html 看護職の倫理綱領・看護研究のための倫理指針 (日本看護協会) 看護学概論 医学書院					
ねらい	新たな知見と技術を発見する手がかりの1つとなる看護研究の基礎を学び、他者の研究論文を通してクリティカルな思考を身につける。 また、専門職者として看護の質の向上をめざすため、事例研究を通して論文の書き方、発表の方法を学ぶ。					
目標	1.看護研究の意義と必要性について理解する 2.研究のプロセスを理解する 3.実践した看護を事例学習レポートにまとめ発表できる。					
回数	学習内容	学習項目			方法	
1 2	1. 看護研究の 意義	1) 看護研究とは 2) 看護専門職と看護研究 3) 看護研究と倫理的配慮 ・研究と基本的人権 ・倫理上の原則 ・研究計画審査機構 ・研究テーマの発見の仕方			講義・演習	
3 4 5	2. 研究計画と 文献検索 3. 研究論文の まとめ方と発 表の方法	1) 文献検索の方法 2) 文献クリティークの実際 3) 研究計画書の立て方 研究計画書作成の目的と概要 1)論文の構成とまとめ方 2)研究計画書の書き方の実際 3)論文をまとめる上での注意事項 4)発表原稿と発表資料のまとめ方			文献検索にて原 著論文を選択し、 クリティークレ ポートを提出す る	
6 7	4. 看護研究の 実際	1)千葉県看護研究学会に参加				
8	学科試験	単位認定試験				
評価方法	授業の出席時間および授業態度、授業中に提示した課題・事例学習					
評価区分	学習項目：1～3 70% 学習項目：4 30%					

授業科目名	看護の統合と実践Ⅱ (看護研究②)	担当教員	担当教員：三		
開講年次	2年次 前期	単位数	1	時間数	15
テキスト					
参考文献・関連科目	看護学生のためのケーススタディ : メジカルフレンド社 https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/index.html 看護職の倫理綱領・看護研究のための倫理指針 (日本看護協会) 看護学概論 医学書院				
ねらい	専門職者として看護の質の向上をめざすため、自分の行った看護を文献を使って考察し、論文をまとめ、校内事例発表会で発表できるようになることがねらいである。				
目標	1. 実践した看護を事例学習レポートにまとめることができる。 2. 口述発表を通してプレゼンテーション能力を身につけることができる。				
回数	学習内容	学習項目	方法		
1 2 3 4	1. 事例学習論文作成	1) 研究計画書の作成 2) 論文の作成	担当教員の指導のもと個人演習 演習7時間 (会場準備の時間を含む)		
5 6 7	2. 事例学習発表	校内事例研究発表会にて発表			
評価方法	課題提出 学習態度、事例学習の内容				
評価区分	個別指導事例学習 事例発表 100%				

授業科目名	看護の統合と実践 III (看護管理・業務マネジメント)	担当講師	(学習項目：1～3)		
		担当教員：	(学習項目：4～6)		
開講年次	2年	単位数	1	時間数	20
テキスト	看護学概論 看護管理 : 医学書院				
参考文献 関連科目	医療安全：医学書院・生命倫理、医療安全				
ねらい	<p>看護管理活動の場は病院のみならず、地域の保健医療福祉の場へと拡大している。</p> <p>看護は、管理者だけでなく看護実践者にも必要な知識と技術であることを理解した上で、組織の一員であることを自覚し、チームとして質の高い看護を提供することが大切であると理解できることがねらいである。</p> <p>新人看護師として現場に出たときのリアリティショックを軽減できるよう業務のマネジメントをする方法を学び、複数の患者を受け持ち、看護するにあたって、チームで協力し、優先順位を考えて看護実践や業務が遂行できるように基礎的な能力を養う。</p>				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の目的について理解できる 2. 看護におけるマネジメントについて理解できる 3. 多職種との協働および組織の一員としての看護師の役割が理解できる 4. 業務遂行のためのマネジメントが理解できる 5. 複数患者を受け持った設定で、優先順位を考えて観察ができる 6. 模擬患者の病室設定で、状況に応じた対応ができる 				
回数	学習項目	学習内容			方法
1	1. マネジメントの概念	1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能			講義:10時間
2		2) 看護管理システム			
3	2. 組織・経営と職務	1) 病院組織とリーダーシップ			
4		2) 多職種間の協働におけるリーダーシップ、メンバーシップ			
5		3) 人材・物資・経済について			
	3. 医療・看護の質保証	1) 質の高い看護ケアを行うためのケアマネジメント 2) チーム医療 3) 安全管理 ①安全管理の仕組み ②医療事故対策 ③院内感染対策 4) 継続教育、キャリア開発 5) 看護職員の労働安全衛生 6) 看護行政 ①看護行政の組織 ②看護にかかわる診療報酬 ③看護職員の確保 ④看護職員の労働環境			
6	4. 業務遂行のためのマネジメント	1) 1日の業務の組み立て ①複数患者を受け持つための情報収集・管理 ②1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 ③優先順位を決定するための情報整理			

		④業務時間の管理 ⑤報告・連絡・相談 2) 多重課題への対処 ①多重課題の危険性 ②多重課題発生時の対処の原則	
7	5.看護体制	1) 看護者間のコミュニケーション (引継ぎ) 2) 看護体制の種類とそれぞれのメリット、デメリット	5時間
8 9 10	6.複数患者看護の実際	1) 演習オリエンテーション (統合実習のオリを含む) 2) 複数患者受け持ち設定課題演習のための事前学習 3) 複数患者受け持ち設定での演習 4) 演習後のリフレクション	
	学科評価	単位認定試験	
評価方法	学科試験 出席状況 授業態度 課題提出にて総合的に評価をする。		
評価区分	学習項目：1～3 50% 学習項目：4～5 20% 学習項目：6 30%		

授業科目名	看護の統合と実践 IV (災害看護・国際看護)	担当講師： 担当教員；	(災害看護の実際) (学習項目：7) 学習項目：1～6)		
開講年次	2年次 後期	単位数	1	時間数	15
テキスト	災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③：医学書院 基礎看護学① 看護学概論：医学書院 小児看護学① 母性看護学① 精神看護学② 地域・在宅看護論① 成人看護学				
参考文献 関連科目	Where there is no doctor: Macmillan 他				
ねらい	<p>近年、災害の頻度や規模が拡大し、被害も拡大している状況がある。このような状況の中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職者は人々の健康にかかわる看護の専門職として、役割を發揮していく必要性が理解できるように学習する。</p> <p>また、グローバル化にともない日本においても諸外国の方々が看護を受ける機会は増えている。看護の対象は人間であり、日本人の看護以外にも目を向け対象の理解につなげるよう国際看護についても学んでいく。</p>				
目標	<p>1. 災害医療・災害看護の概念が理解できる</p> <p>1. 災害各期の看護活動を理解する</p> <p>2. 災害時の応急処置の実際を理解する</p> <p>3. 国際社会における看護について理解できる</p>				
回数	学習内容	学習項目	方法		
1	1.災害医療と看護	1) 災害医療の基礎知識	講義 演習		
2		①災害看護の定義と役割、災害看護と救急看護の違い			
3		②災害看護の対象 ③災害看護の特徴と看護活動			
4	2.災害の種類と災害サイクル	1) 災害サイクルとは			
		2) 災害サイクル別の看護活動			
	3. 災害時における心のケア	①災害準備期の看護 ②災害に備えたシステムの整備			
		③災害が起こったときの災害の軽減化			
		1) 災害にみまわれた人の心理			
		2) 災害急性期の心のケア			
		3) 支援者のメンタルヘルスとケア			
	4. 地域での暮らしにおける災害対策	1) 災害が暮らしに与える影響			
		2) 地域・在宅看護と災害対策			
		3) 災害対策における地域・在宅看護の役割			
	5. 被災者特性に応じた災害看護	1) 災害時要援護者の特性や災害時にかかえる困難と看護			
		(1) 災害を受けた小児と家族の看護			
		①被災地の環境と看護の役割			